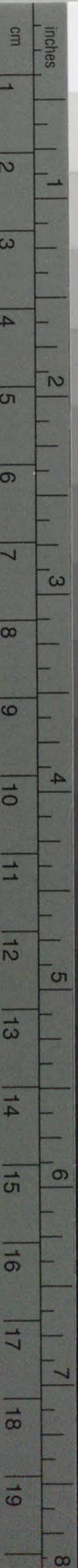


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



1431
501

BZ-3-01
1200901600127

第四十五回
帝國議會

貴族院事務局報告

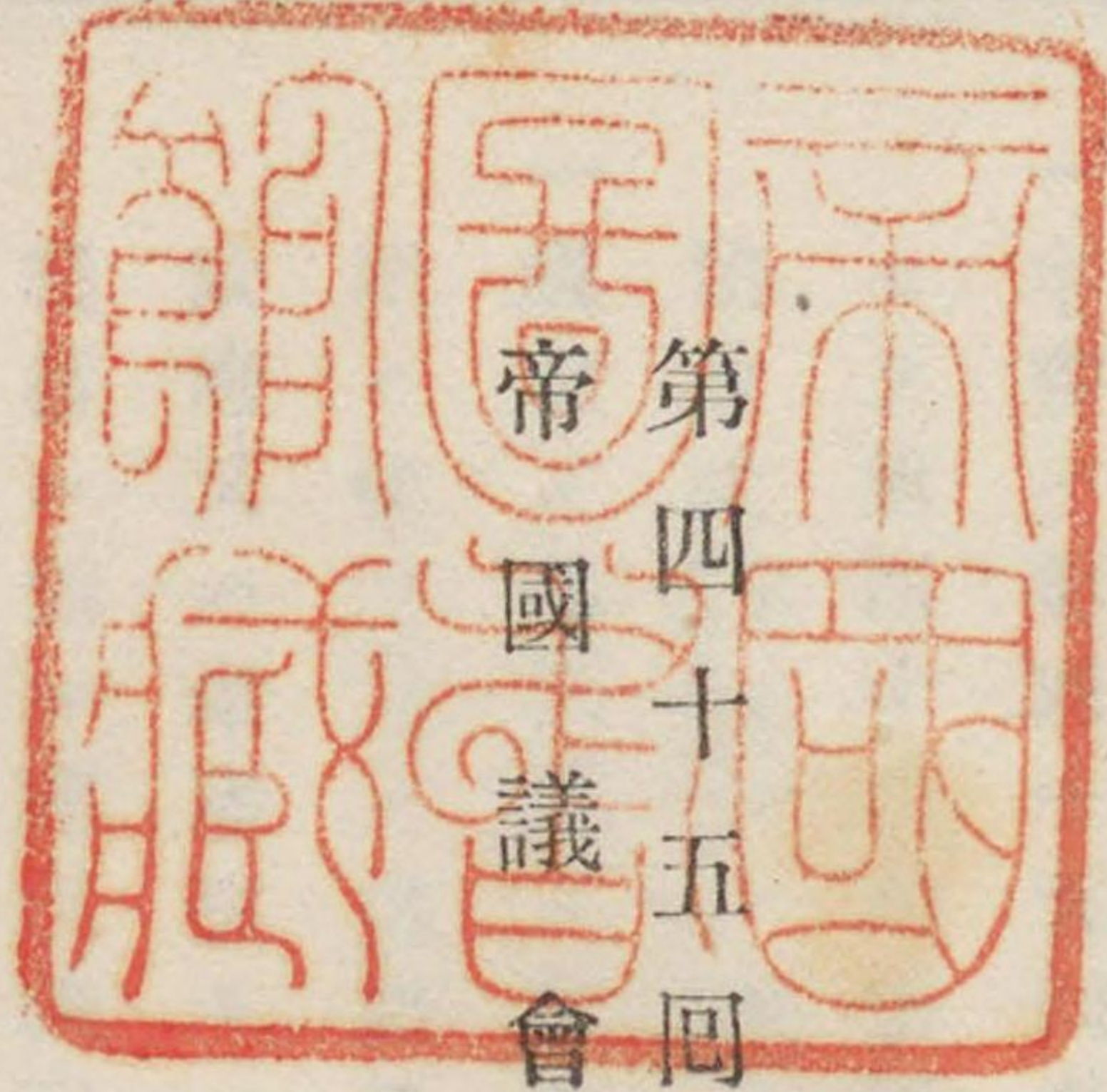
14527



貴族院事務局報告



143-50A



貴族院事務局報告

大正
12. 2. 15
內交

例
言



BZ
3
01



貴族院事務局報告



例言

一 本書ハ第四十五回帝國議會ニ於ケル貴族院ノ議事事項ヲ主トシテ記述シ併
 セテ第四十四回帝國議會閉會式(大正十七年三月二十七日)ノ翌日ヨリ第四十五回帝國議會
 閉會式(大正十八年三月二十六日)ニ至ル迄ノ事項ヲ纂輯ス

一 議案ノ速記録ニ記載シタルモノハ本書各項ノ下ニ速記録ノ號數ヲ記シテ參
 照ニ便ス其ノ速記録ニ記載セサルモノ其ノ他議事ニ關スル報告書並本院ト
 政府又ハ衆議院トノ間ニ於ケル議事ニ關スル往復書類ハ總テ本院事務局ノ
 編纂ニ係ル速記録附録中ニ輯録セルヲ以テ就テ參照スヘシ

例言

第四十五回 貴族院事務局報告
第一章 召集及成立
第二章 開會及閉會
第一章 開會
第二章 閉會
第三章 儀禮
第一章 慶賀
第二章 歡迎
第四章 假議長、議員、委員、國務大臣及政府委員
第一章 假議長
第二章 議員席次
第三章 議員異動
第一章 死亡及弔辭

第四十五回 貴族院事務局報告

第二章 開會及閉會

第一章 召集及成立

第二章 開會及閉會

第一章 開會

第二章 閉會

第三章 儀禮

第一章 慶賀

第二章 歡迎

第四章 假議長、議員、委員、國務大臣及政府委員

第一章 假議長

第二章 議員席次

第三章 議員異動

第一章 死亡及弔辭

一百十五頁
二百五頁
二十五頁
十五頁
二十五頁
二十五頁
二十二頁
二十二頁
二十三頁
二十三頁
二十四頁
三十八頁
三十八頁
三十八頁

第二	辭職	四十一頁
第三	資格消滅	四十一頁
第四	除名	四十一頁
第五	當選	四十一頁
第六	就職	四十二頁
第七	勅任	四十二頁
第四節	全院委員長	四十四頁
第五節	常任委員	四十五頁
第六節	國務大臣及政府委員	六十三頁
第五章	議事	七十六頁
第一節	法律案	七十六頁
第一	政府提出案	七十六頁
第二	衆議院提出案	二百九頁
第二節	承諾ヲ求ムル件	二百十七頁

第三節	豫算案及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス ヲ要スル件	二百二十二頁
第四節	決算	二百五十一頁
第五節	建議案	二百五十二頁
第六節	動議	二百五十四頁
第七節	請願	二百五十五頁
第六章	諸表	二百七十一頁
一	議案件數表	二百七十三頁
一	議案表	二百七十五頁
一	議事日表	五百十四頁
一	自第一回議會 至第四十五回議會 開會日時比較表	五百三十八頁
一	自第一回議會 至第四十五回議會 議案件數議事件數開會日數及時間數一覽 表	五百四十三頁
一	委員會表	五百四十七頁

- 一 常任委員會細表 五百五十五頁
- 一 請願書類別表 五百九十四頁
- 一 請願書呈出地別表 五百九十八頁
- 一 請願書紹介議員別表 六百三十八頁
- 一 自第一回議會至第四十五回議會請願受領件數比較表 六百四十頁
- 一 議員出席闕席表 六百四十四頁
- 一 自第一回議會至第四十五回議會議員出席比例一覽表 六百四十七頁
- 一 自第一回議會至第四十五回議會傍聽人員表 六百五十三頁
- 一 自第一回議會至第四十五回議會印刷物比較表 六百五十七頁

第四十五回 帝國議會 貴族院事務局報告

○第一章 召集及成立

大正十年十一月十二日左ノ帝國議會召集ノ詔書ヲ發セラル

朕帝國憲法第七條及第四十一條ニ依リ本年十二月二十四日ヲ以テ帝國議會

ヲ東京ニ召集ス

十二月二十四日貴族院議員召集ノ詔書ニ依リ貴族院ニ集會シ各其ノ控室ニ入

ル午前九時九分副議長ハ議員ヲ議場ニ集メ席次表ニ依リ著席セシム

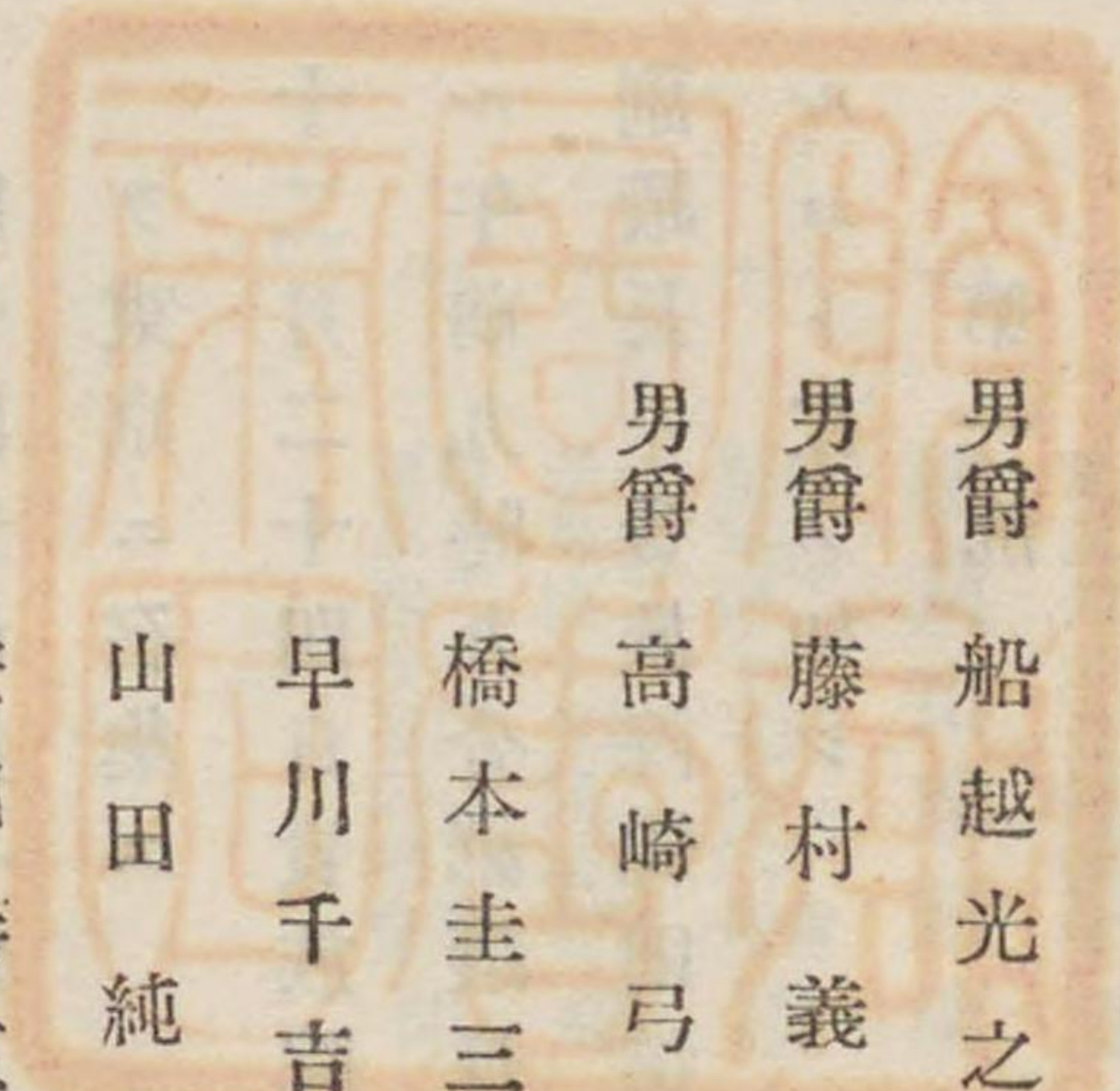
副議長ハ貴族院規則第五條ニ依リ書記官ヲシテ抽籤セシメ議員ノ部屬ヲ定ム

ルト左ノ如シ



- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 侯爵 德川 賴 倫 | 侯爵 前田 利 爲 | 侯爵 德川 圀 順 |
| 侯爵 野津 鎮之助 | 侯爵 木戶 幸 一 | 侯爵 中山 輔 親 |
| 伯爵 萬里小路 通房 | 子爵 田尻 稻次郎 | 男爵 小澤 武 雄 |
| 子爵 鍋島 直 虎 | 子爵 本多 實 方 | 子爵 舟橋 遂 賢 |

子爵 樋口誠康	子爵 堀河護麿	子爵 京極高備
子爵 京極高義	子爵 片桐貞央	子爵 清岡長言
子爵 立花種忠	男爵 杉溪言長	男爵 目賀田種太郎
男爵 阪谷芳郎	岡田良平	鈴木喜三郎
男爵 船越光之丞	男爵 長松篤柴	男爵 今園國貞
男爵 藤村義朗	男爵 野田龜喜	男爵 辻太郎
男爵 高崎弓彦	三宅秀	阪本鈺之助
橋本圭三郎	杉田定一	室田義文
早川千吉郎	桑原善吉	鎌田榮吉
山田純精	石谷傳四郎	矢口長右衛門
安田善三郎	島定治郎	
第二部	裕仁親王	依仁親王
公爵 大山柏	侯爵 大久保利和	侯爵 井上勝之助
		成久王



第三部

侯爵 德川義親	侯爵 小村欣一	侯爵 中御門經恭
侯爵 佐佐木行忠	侯爵 尙昌	子爵 平田東助
子爵 京極高德	子爵 實吉安純	子爵 牧野忠篤
子爵 五辻治仲	子爵 松平乘長	子爵 渡邊千冬
水上長次郎	田邊輝實	荒川義太郎
河村讓三郎	大谷靖	男爵 阪井重季
男爵 肝付兼行	男爵 山内豐政	男爵 竹腰正己
男爵 永山武敏	男爵 中島久萬吉	男爵 本田親濟
男爵 横山隆俊	男爵 佐竹義準	男爵 矢吹省三
男爵 岩佐新	男爵 藤田平太郎	加藤恒忠
川上親晴	湯淺倉平	麻生太吉
田中源太郎	高倉虎	伊丹彌太郎
勝田銀次郎	横山章	

博 恭 王	公爵 伊藤博邦	侯爵 小松輝久	伯爵 小笠原長幹	子爵 前田利定	子爵 池田政時	淺田德則	仲小路 廉	男爵 山內長人	男爵 楠本正敏	男爵 藤堂高成	關 清英	菅原通敬	鈴木摠兵衛
邦 彦 王	公爵 近衛文麿	伯爵 松浦 厚	子爵 松平直德	子爵 六郷政賢	子爵 丹羽長德	大久保利武	小松謙次郎	上山滿之進	男爵 島津久賢	男爵 寺島敏三	山之内一次	岡田文次	竹村與右衛門
稔 彦 王	侯爵 山內豐景	伯爵 松平頼壽	子爵 永井尙敏	子爵 榎本武憲	子爵 蒔田廣城	岡野敬次郎	男爵 古市公威	男爵 小早川四郎	男爵 安藤直雄	中島永元	安樂兼道	德富猪一郎	山田 敏

第四部

岡本榮吉	載仁親王	公爵 島津忠重	侯爵 淺野長勳	侯爵 醍醐忠重	子爵 山口弘達	子爵 大給近孝	子爵 大浦兼一	小牧昌業	福原隼二郎	男爵 平野長祥	男爵 島津健之助	仁尾惟茂
櫻井伊兵衛	朝 融 王	公爵 二條厚基	侯爵 松方正義	伯爵 副島道正	子爵 土方雄志	子爵 大河内正敏	男爵 山川健次郎	江木千之	男爵 伊瀬知好成	男爵 坪井九八郎	何 禮 之	高橋琢也
	公爵 九條道實	公爵 鷹司信輔	侯爵 池田仲博	子爵 藤波言忠	子爵 毛利高範	子爵 西尾忠方	男爵 大島健一	男爵 太秦供康	男爵 南岩倉具威	男爵 清水資治	湯地定監	勝田主計

第五部

高田早苗	伊澤多喜男	西久保弘道
小池靖一	鎌田勝太郎	西川甚五郎
根津啓吉	高橋隆一	
武彦王	多嘉王	侯爵 蜂須賀正韶
侯爵 鍋島直映	侯爵 細川護立	侯爵 佐竹義春
伯爵 川村鐵太郎	山脇 玄	子爵 唐橋在正
子爵 高倉永則	子爵 石井菊次郎	子爵 松平直平
子爵 櫛笥隆督	子爵 森 清	子爵 西大路吉光
子爵 柳生俊久	子爵 黒田清輝	子爵 吉田清風
子爵 本多忠鋒	子爵 新庄直知	櫻井錠二
黒岡帶刀	和田彦次郎	岡喜七郎
男爵 西 紳六郎	内田嘉吉	男爵 武井守正
男爵 内田正敏	木場貞長	笠井信一

第六部

男爵 眞田幸世	男爵 神山郡昭	男爵 伊達宗曜
男爵 東郷安	石井省一郎	藤田四郎
南 弘	磯部四郎	大村彦太郎
江原素六	宮川久一郎	富永猿雄
成清信愛		
鳩彦王	公爵 徳大寺公弘	侯爵 大隈重信
侯爵 伊達宗陳	侯爵 西郷從徳	侯爵 久我常通
伯爵 柳澤保惠	子爵 大宮以季	子爵 藤谷爲寛
子爵 冷泉爲勇	子爵 高橋是清	子爵 五島盛光
子爵 白川資長	子爵 秋田重季	子爵 戸澤正己
子爵 米倉昌達	男爵 後藤新平	男爵 山中信儀
男爵 沖原光孚	犬塚勝太郎	平井晴二郎
河村善益	石塚英藏	男爵 西村精一

男爵 毛利五郎	男爵 千秋季隆	男爵 岩倉道俱
男爵 二條正麿	谷森真男	澤柳政太郎
木内重四郎	加太邦憲	若槻禮次郎
古賀廉造	兒玉利國	江木翼
大谷嘉兵衛	佐藤傳兵衛	二階堂三郎左衛門
中村圓一郎	橋本辰二郎	土田萬助
田中清文		
第七部		
公爵 山縣有朋	公爵 西園寺公望	侯爵 松平康莊
侯爵 菊亭公長	伯爵 兒玉秀雄	子爵 伏原宣足
男爵 木越安綱	服部一三	山縣伊三郎
子爵 勘解由小路資承	子爵 酒井忠亮	子爵 細川立興
子爵 豐岡圭資	子爵 藪篤麿	子爵 堤雄長
子爵 八條隆正	子爵 牧野一成	子爵 板倉勝憲

北里柴三郎	男爵 宇佐川一正	男爵 高千穂宣麿
男爵 坂本俊篤	渡正元	男爵 藤井包總
中村是公	男爵 安場末喜	男爵 島津長丸
男爵 永山盛典	男爵 黑田長和	男爵 郷誠之助
男爵 調所恒德	男爵 池田長康	男爵 中川良長
原保太郎	鮫島武之助	中村純九郎
鍋島桂次郎	田所美治	石橋謹二
津村紀陵	犬上慶五郎	藤本閑作
三木與吉郎		
第八部		
邦芳王	守正王	公爵 毛利元昭
侯爵 廣幡忠隆	伯爵 吉井幸藏	伯爵 廣澤金次郎
伯爵 大木遠吉	伯爵 奧平昌恭	伯爵 林博太郎
伯爵 堀田正恒	男爵 高平小五郎	子爵 青山幸宜

子爵 加藤高明	子爵 青木信光	子爵 伊集院兼知
子爵 井上匡四郎	子爵 五條為功	子爵 今城定政
子爵 秋月種英	子爵 伊東祐弘	子爵 野村益三
子爵 米津政賢	子爵 竹屋春光	子爵 松室致
男爵 山根武亮	男爵 村上敬次郎	北條時敬
男爵 山本達雄	鹿子木 小五郎	荒井賢太郎
男爵 水野鍊太郎	男爵 若王子文健	男爵 黒川幹太郎
男爵 福原俊丸	男爵 周布兼道	倉知鐵吉
小山健三	安立綱之	市來乙彦
片岡直輝	伊藤傳七	星島謹一郎
近岡理三郎		
第九部		
貞愛親王	博義王	恒憲王
公爵 一條實輝	公爵 徳川慶久	侯爵 嵯峨公勝

副議長ハ貴族院規則第七條及第九條ニ依リ各部ニ於テ部長及理事ヲ互選スヘ

侯爵 花山院親家	侯爵 四條隆愛	伯爵 清棲家教
伯爵 松木宗隆	伯爵 寺島誠一郎	伯爵 柳原義光
伯爵 中川久任	伯爵 勸修寺經雄	男爵 野村素介
子爵 松平乘承	子爵 稻垣太祥	子爵 東坊城徳長
阿部 浩	大山綱昌	大澤謙二
男爵 村木雅美	男爵 名和長憲	男爵 神田乃武
男爵 田健治郎	男爵 新田忠純	男爵 外松孫太郎
男爵 徳川厚	男爵 北大路實信	男爵 斯波忠三郎
男爵 赤松範一	男爵 小畑大太郎	湯地定基
石黒五十二	石渡敏一	福永吉之助
永田秀次郎	八木久兵衛	佐藤友右衛門
今井五介	高橋源次郎	平尾喜三郎
中山嘉兵衛		

キ旨ヲ宣告ス議員乃チ各部ニ退ク
各部ハ貴族院規則第七條ニ依リ各管理者ヲ定メ部長及理事ヲ互選ス
各部ニ於テ定メタル管理者ノ氏名左ノ如シ

第一部 男爵 小澤 武雄 第二部 大谷 正清

第三部 男爵 淺田 德則 第四部 小牧 昌業

第五部 男爵 武井 守正 第六部 谷 森真男

第七部 渡 正元 第八部 伊藤 傳七

第九部 男爵 野村 素介

各部ニ於テ當選シタル部長及理事ノ氏名左ノ如シ

第一部 部長 侯爵 德川 圀順 理事 男爵 阪谷 芳郎

第二部 部長 侯爵 佐佐木 行忠 理事 子爵 實吉 安純

第三部

部長 侯爵 近衛 文麿 理事 子爵 榎本 武憲

第四部 部長 公爵 二條 厚基 理事 小牧 昌業

第五部 部長 侯爵 細川 護立 理事 子爵 黒田 清輝

第六部 部長 伯爵 柳澤 保惠 理事 男爵 千 秋季 隆

第七部 部長 侯爵 松平 康莊 理事 男爵 藤井 包 總

第八部 部長 伯爵 吉井 幸藏 理事 安立 綱之

第九部 部長 公爵 德川 慶久 理事 伯爵 清棲 家 教

部長及理事確定シタルヲ以テ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ散會ヲ宣告ス時ニ午前

十時三十一分ナリ

即日議長ハ貴族院成立ノ旨ヲ政府及衆議院ニ通知セリ

附記

部屬確定後ニ於テ定マリタル議員ノ部屬左ノ如シ

- 第二部 三田 義正(大正十一年一月二十五日勅任)
- 第二部 博 忠王(同年一月二十六日就職)
- 第六部 侯爵 大隈 信常(同年一月三十日就職)
- 第七部 富谷 銈太郎(同年二月二日勅任)
- 第九部 渡邊 廉吉(同上)
- 第九部 嘉納 治五郎(同上)
- 第九部 玉利 喜造(同上)
- 第五部 竹越 與三郎(同上)
- 第六部 和田 豐治(同上)
- 第七部 金杉 英五郎(同上)

- 第七部 公爵 山縣 伊三郎(同年二月二十八日就職)
- 第二部 邦 久王(同年三月十日就職)
- 第八部 男爵 土屋 光金(同年三月十八日當選)
- 第九部 男爵 伊藤 文吉(同上)

又部長及理事ノ異動左ノ如シ

大正十一年一月二十一日第七部部長侯爵松平康莊辭任ニ付同月二十四日同部ニ於テ其ノ補闕選舉ヲ行ヒシニ伯爵兒玉秀雄當選セリ

同年一月二十二日第九部部長公爵德川慶久薨去ニ付同月二十七日同部ニ於テ其ノ補闕選舉ヲ行ヒシニ理事伯爵清棲家教當選シ引續キ同理事

ノ補闕選舉ヲ行ヒシニ男爵村木雅美當選セリ

○第二章 開會及閉會

○第一節 開會

大正十年十二月二十六日兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ攝政殿下台臨シテ開院ノ式ヲ舉ケ給フ

是ヨリ先キ十二月二十四日左ノ帝國議會開會ノ詔書ヲ發セラレ

朕帝國憲法第七條及議院法第五條ニ依リ十二月二十六日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命ス

午前十時衆議院議長、兩院副議長及議員各議院ニ參集ス

午前十時三十分親王、王、各大臣、臨時外交調査委員會委員、樞密顧問官、式部官貴族院ニ參集ス

午前十時四十分攝政殿下東宮假御所御出門宮内大臣、侍從武官長、式部長官、主馬頭、侍從次長其ノ他ノ供奉員ヲ率キテ午前十時四十六分貴族院ニ台臨アラセラレ衆議院議長、副議長、兩院書記官長及書記官ハ貴族院正門内ニ整列奉迎シ貴族院副議長ハ御車寄ニ奉迎シテ直ニ便殿ニ奉導ス

殿下便殿ニ御著アラセラレタル後衆議院議長、兩院副議長及書記官長ニ謁ヲ賜フ

午前十一時兩院議員ハ各、其ノ議長(貴族院ハ議長不在ニ付副議長代理ス)ノ指揮ニ從ヒ式場ニ整列ス同時衆議院議長、兩院副議長、書記官長及書記官式場ニ整列ス

同時各大臣以下諸員式場ニ整列ス

殿下式部長官ノ先導ニ依リ親王以下扈從シ式場ニ御參進アラセラル

殿下式場ニ御著アラセラルルヤ各員最敬禮ヲ行フ

内閣總理大臣子爵高橋是清御前ニ進ミ勅語書ヲ奉進ス

殿下左ノ勅語ヲ賜フ

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

帝國ト締盟各國トノ交際ハ益々親厚ヲ加ヘ華盛頓會議モ亦將ニ其ノ成果ヲ見ムトス朕深ク之ヲ欣フ

今ヤ帝國ハ外列強ニ伍シテ負荷重キヲ加ヘ内文運ノ伸暢ニ伴ヒ時務愈々滋カラムトス朕ハ忠良ナル臣民ノ協力ニ倚藉シ以テ國勢隆昌ノ實ヲ擧ケ世界平和ノ確立ト文化ノ進展トニ資セムコトヲ期ス朕ハ國務大臣ニ命シテ大正十一年度豫算案及各般ノ法律案ヲ帝國議會ニ提出セシム卿等克ク朕カ意ヲ體シ和衷審議以テ協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム滿場肅然各員拜聽シテ最敬禮ヲ行フ貴族院副議長侯爵黑田長成御前ニ進ミ勅

語書ヲ拜受シテ列ニ復ス
是ニ於テ殿下式部長官ノ先導ニ依リ親王以下扈從シ御退場アラセラレ午前十一時十四分衆議院正門ヲ出テ還啓アラセラル貴族院副議長ハ便殿ヨリ奉導シテ御車寄ニ奉送シ衆議院議長、副議長、兩院書記官長及書記官ハ衆議院正門内ニ整列奉送ス
當日式場ニ於ケル參列員左ノ如シ
參列員

載仁親王、博恭王、武彥王、邦彥王、守正王、鳩彥王、內閣總理大臣兼大藏大臣、臨時海軍大臣事務管理子爵高橋是清、外務大臣伯爵內田康哉、農商務大臣男爵山本達雄、內務大臣床次竹二郎、文部大臣中橋德五郎、遞信大臣野田卯太郎、鐵道大臣元田肇、司法大臣伯爵大木遠吉、陸軍大臣山梨半造、臨時外交調查委員會委員男爵後藤新平、樞密顧問官子爵金子堅太郎、同子爵濱尾新、同平山成信、同子爵石黑忠惠、同伯爵珍田捨巳、同倉富勇三郎、式部官田内三吉、同山邊知春
供奉參列員

宮内大臣子爵牧野伸顯、侍從武官長內山小二郎、式部長官侯爵井上勝之助、主馬頭公爵伊藤博邦、侍從次長子爵入江爲守

十二月二十七日議院ハ副議長ノ起草ニ係ル開院式ノ節賜ハリタル勅語ニ對スル奉答書案ノ會議ヲ開キ全會一致ヲ以テ之ヲ可決シ次テ副議長ハ奉答書ヲ携ヘテ參内シ午前十時鳳凰ノ間ニ於テ攝政殿下ニ拜謁ノ上左ノ奉答書ヲ朗讀シテ之ヲ捧呈ス

貴族院副議長 臣黑田長成 誠恐誠惶謹テ
叡聖文武天皇陛下ニ上奏ス

第四十五回帝國議會ノ開會ニ際シ茲ニ盛典ヲ舉ケ優渥ナル

勅語ヲ賜フ臣等謹テ

叡旨ヲ奉體シ慎重審議協贊ノ任ヲ竭シ以テ

皇猷ヲ贊襄セムコトヲ期ス臣長成恐懼ノ至ニ任ヘス謹テ奉答ス

殿下左ノ勅語ヲ賜フ

朕貴族院ノ深厚ナル敬禮ヲ嘉ス

同日副議長ハ議院ノ會議ニ於テ奉答書上奏ノ顛末ヲ報告シ且賜フ所ノ勅語ヲ捧讀ス議員一同拜聽シテ最敬禮ヲ行フ

○第二節 閉會

大正十一年三月二十五日内閣總理大臣ヨリ左ノ通牒ヲ受領セリ

本月二十六日貴族院ニ於テ帝國議會閉會式執行被仰出候

三月二十七日午前十一時兩院議員ハ各其ノ議長ノ指揮ニ從ヒ式場ニ參列ス

同時兩院議長衆議院副議長兩院書記官長及書記官式場ニ參列ス

同時各大臣以下諸員式場ニ參列ス

午前十一時五分内閣總理大臣子爵高橋是清進テ左ノ辭ヲ述ヘ勅語ヲ捧讀ス

茲ニ勅命ヲ奉シ勅語ヲ捧讀スルノ光榮ヲ有シマス

勅語

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕本日ヲ以テ帝國議會ノ閉會ヲ命シ併セテ卿等勵精克ク協贊ノ任ヲ竭セル

ノ勞ヲ嘉獎ス

各員拜聽シテ最敬禮ヲ行フ貴族院議長公爵德川家達進テ勅語書ヲ拜受シテ列ニ復ス是ニ於テ式畢ル時ニ午前十一時八分ナリ

○第三章 儀禮

○第一節 慶賀

大正十年九月三日皇太子殿下御歸朝ニ付議長公爵德川家達ハ議院ヲ代表シテ參内シ宮内大臣ヲ經テ 天皇皇后兩陛下ニ祝辭ヲ言上シ又東宮御所ニ參殿シ皇太子殿下ニ拜謁ノ上長途ノ御旅行御滯リナク濟マセラレ還啓アラセラレタルハ誠ニ恐悅ノ至リ茲ニ貴族院ヲ代表シ祝意ヲ表シ奉ル旨ヲ言上セシニ殿下ヨリ左ノ御言葉ヲ賜ハリタリ

厚意ヲ謝ス

同年十一月二十六日皇太子殿下攝政御就任ニ付副議長侯爵黑田長成ハ議院ヲ代表シテ參内シ侍從長ヲ經テ 天機ヲ奉伺シ皇后宮大夫ヲ經テ皇后陛下ノ御機嫌ヲ奉伺シ又東宮御所ニ參殿シ皇太子殿下ニ拜謁ノ上御機嫌ヲ奉伺セリ

○第二節 歡迎

大正十一年二月一日公爵近衛文麿外六名ノ發議ニ係ルシヨツフル元帥歡迎決議案ノ會議ヲ開キ公爵近衛文麿本案ノ趣旨ヲ説明スルト共ニ歡迎ノ演說ヲ爲シ次テ議院ハ全會一致ヲ以テ本案ヲ可決セリ決議文左ノ如シ

シヨツフル元帥歡迎決議

貴族院ハ佛蘭西國元帥シヨツフル閣下カ最高ノ使命ヲ帶ヒテ來訪シ日佛兩國ノ交際益、親密ヲ加フルニ至リタルコトヲ喜ヒ爰ニ歡迎ノ誠意ヲ表ス此ノ日シヨツフル元帥ハ貴族院ニ來訪セラレ親シク歡迎決議案ノ議事ヲ傍聽セラレタリ

歡迎決議文ハ佛語譯文ヲ添ヘテ二月一日元帥ニ贈呈ス而シテ同日元帥ヨリ謝狀ヲ受領セリ

同年三月二十四日ノ會議ニ於テ公爵二條厚基ハ來ル四月中旬ノ頃英國皇太子殿下我邦ニ御來光ノ趣ニ付其ノ際貴族院カ殿下ヲ歡迎シ奉ル方法ニ關シ一切ノ處置ヲ議長ニ委任スルノ動議ヲ提出シ議院ハ全會一致ヲ以テ之ヲ可決セリ

○第四章 假議長、議員、委員、國務大臣及政府委員

○第一節 假議長

大正十年十二月二十七日ノ會議ニ於テ副議長侯爵黑田長成ハ是ヨリ勅語奉答書捧呈ノ爲參内セムトスルニ方リ德川議長不在中ニ付議事ノ進行ニ支障ヲ生スルヲ以テ此ノ際議事日程ヲ變更シテ假議長ノ選舉ヲ行フノ件ヲ議院ニ諮ヒシニ議院ハ異議ナク之ヲ可決シ直ニ假議長選舉ノ會議ヲ開キ議院ハ淺田德則ノ動議ヲ以テ貴族院規則第十四條第二項ノ規定ニ依リ德川議長ノ不在中假議長ノ選舉ヲ議長ニ委任スルコトヲ議決ス是ニ於テ副議長ハ直ニ公爵近衛文麿ヲ假議長ニ選定セリ

大正十一年三月二十四日ノ會議ニ於テ議事日程ニ移ルノ前議長公爵德川家達ハ黒田副議長目下旅行中ニシテ本會期中歸京爲シ難キ趣ニ付若議長ニ故障ヲ生スルトキハ代理者ナキニ至ルヲ以テ此ノ際假議長選舉ノ件ニ關シ協議シタキ旨ヲ告ケ直ニ之カ會議ヲ開キ議院ハ淺田德則ノ動議ヲ以テ貴族院規則第十四條第二項ノ規定ニ依リ議長故障アル場合ニ假議長ノ選舉ヲ議長ニ委任スルコトヲ議決セリ

同日議長公爵徳川家達ハ前記ノ決議ニ基キ侯爵蜂須賀正韶ヲ二回假議長ニ選
定セリ

○第二節 議員席次

大正十一年三月二十五日現在議員ノ席次左ノ如シ

- | | | | |
|----|---------|----|--------|
| 一 | 裕仁親王 | 二 | 貞愛親王 |
| 三 | 載仁親王 | 四 | 依仁親王 |
| 五 | 邦芳王 | 六 | 博恭王 |
| 七 | 博義王 | 八 | 博忠王 |
| 九 | 武彦王 | 十 | 恒憲王 |
| 十一 | 邦彦王 | 十二 | 朝融王 |
| 十三 | 邦久王 | 十四 | 守正王 |
| 十五 | 多嘉王 | 十六 | 鳩彦王 |
| 十七 | 稔彦王 | 十八 | 成久王 |
| 十九 | 公爵西園寺公望 | 二十 | 公爵徳川家達 |

- | | | | |
|-----|---------|-----|---------|
| 二十一 | 公爵一條實輝 | 二十二 | 公爵毛利元昭 |
| 二十三 | 公爵九條道實 | 二十四 | 公爵山縣伊三郎 |
| 二十五 | 公爵徳大寺公弘 | 二十六 | 公爵伊藤博邦 |
| 二十七 | 公爵島津忠重 | 二十八 | 公爵近衛文麿 |
| 二十九 | 公爵二條厚基 | 三十 | 公爵大山柏 |
| 三十一 | 公爵鷹司信輔 | 三十二 | 侯爵淺野長勳 |
| 三十三 | 侯爵松方正義 | 三十四 | 侯爵嵯峨公勝 |
| 三十五 | 侯爵大久保利和 | 三十六 | 侯爵黒田長成 |
| 三十七 | 侯爵松平康莊 | 三十八 | 侯爵井上勝之助 |
| 三十九 | 侯爵伊達宗陳 | 四十 | 侯爵徳川頼倫 |
| 四十一 | 侯爵蜂須賀正韶 | 四十二 | 侯爵山内豊景 |
| 四十三 | 侯爵池田仲博 | 四十四 | 侯爵鍋島直映 |
| 四十五 | 侯爵花山院親家 | 四十六 | 侯爵西郷從徳 |
| 四十七 | 侯爵四條隆愛 | 四十八 | 侯爵廣幡忠隆 |

四十九	侯爵 前田利為	五十	侯爵 德川圀順
五十一	侯爵 野津鎮之助	五十二	侯爵 小松輝久
五十三	侯爵 徳川義親	五十四	侯爵 小村欣一
五十五	侯爵 中御門經恭	五十六	侯爵 菊亭公長
五十七	侯爵 細川護立	五十八	侯爵 醍醐忠重
五十九	侯爵 大隈信常	六十	侯爵 佐竹義春
六十一	侯爵 木戸幸一	六十二	侯爵 佐佐木行忠
六十三	侯爵 尙 昌	六十四	侯爵 久我常通
六十五	侯爵 中山輔親	六十六	伯爵 萬里小路通房
六十七	伯爵 清棲家教	六十八	伯爵 吉井幸藏
六十九	伯爵 松木宗隆	七十	伯爵 松浦 厚
七十一	伯爵 寺島誠一郎	七十二	伯爵 柳澤保惠
七十三	伯爵 廣澤金次郎	七十四	伯爵 兒玉秀雄
七十五	伯爵 大木遠吉	七十六	伯爵 川村鐵太郎

七十七	伯爵 副島道正	七十八	伯爵 奥平昌恭
七十九	伯爵 中川久任	八十	伯爵 林 博太郎
八十一	伯爵 松平頼壽	八十二	伯爵 勸修寺經雄
八十三	伯爵 小笠原長幹	八十四	伯爵 堀田正恒
八十五	子爵 田尻稻次郎	八十六	子爵 伏原宣足
八十七	男爵 野村素介	八十八	男爵 山 脇 玄
八十九	男爵 高平小五郎	九十	男爵 小澤武雄
九十一	男爵 木越安綱	九十二	男爵 服部一三
九十三	子爵 藤波言忠	九十四	子爵 平田東助
九十五	子爵 唐橋在正	九十六	子爵 大宮以季
九十七	子爵 松平乘承	九十八	子爵 青山幸宜
九十九	子爵 山口弘達	百	子爵 鍋島直虎
百一	子爵 土方雄志	百二	子爵 京極高德
百三	子爵 本多實方	百四	子爵 加藤高明

百五	子爵 舟橋 遂賢	百六	子爵 實吉 安純
百七	子爵 勘解由小路 資承	百八	子爵 高倉 永則
百九	子爵 石井 菊次郎	百十	子爵 藤谷 爲寬
百十一	子爵 樋口 誠康	百十二	子爵 稻垣 太祥
百十三	子爵 毛利 高範	百十四	子爵 東坊城 德長
百十五	子爵 松平 直平	百十六	子爵 松平 直德
百十七	子爵 青木 信光	百十八	子爵 冷泉 爲勇
百十九	子爵 牧野 忠篤	百二十	子爵 酒井 忠亮
百二十一	子爵 永井 尙敏	百二十二	子爵 伊集院 兼知
百二十三	子爵 堀河 護麿	百二十四	子爵 高橋 是清
百二十五	子爵 五島 盛光	百二十六	子爵 五辻 治伸
百二十七	子爵 井上 匡四郎	百二十八	子爵 細川 立興
百二十九	子爵 前田 利定	百三十	子爵 櫛笥 隆督
百三十一	子爵 森 清	百三十二	子爵 西大路 吉光

百三十三	子爵 六郷 政賢	百三十四	子爵 五條 爲功
百三十五	子爵 榎本 武憲	百三十六	子爵 柳生 俊久
百三十七	子爵 京極 高備	百三十八	子爵 黒田 清輝
百三十九	子爵 京極 高義	百四十	子爵 今城 定政
百四十一	子爵 吉田 清風	百四十二	子爵 大給 近孝
百四十三	子爵 本多 忠鋒	百四十四	子爵 豊岡 圭資
百四十五	子爵 藪 篤麿	百四十六	子爵 秋月 種英
百四十七	子爵 伊東 祐弘	百四十八	子爵 片桐 貞央
百四十九	子爵 大河内 正敏	百五十	子爵 松平 乘長
百五十一	子爵 堤 雄長	百五十二	子爵 白川 資長
百五十三	子爵 野村 益三	百五十四	子爵 池田 政時
百五十五	子爵 丹羽 長徳	百五十六	子爵 米津 政賢
百五十七	子爵 清岡 長言	百五十八	子爵 八條 隆正
百五十九	子爵 立花 種忠	百六十	子爵 新庄 直知

百六十一	子爵	秋田重季	百六十二	子爵	渡邊千冬
百六十三	子爵	牧野一成	百六十四	子爵	戶澤正己
百六十五	子爵	西尾忠方	百六十六	子爵	大浦兼一
百六十七	子爵	蒔田廣城	百六十八	子爵	竹屋春光
百六十九	子爵	板倉勝憲	百七十	子爵	米倉昌達
百七十一	子爵	淺田德則	百七十二	男爵	後藤新平
百七十三	男爵	山中信儀	百七十四	男爵	松室致
百七十五	男爵	大山綱昌	百七十六	男爵	杉溪言長
百七十七	男爵	北里柴三郎	百七十八	男爵	大澤謙二
百七十九	男爵	山根武亮	百八十	男爵	山川健次郎
百八十一	男爵	沖原光孚	百八十二	男爵	大久保利武
百八十三	男爵	村上敬次郎	百八十四	男爵	櫻井錠二
百八十五	男爵	岡野敬次郎	百八十六	男爵	大島健一
百八十七	男爵	嘉納治五郎	百八十八	男爵	北條時敬

百八十九	男爵	犬塚勝太郎	百九十	男爵	山本達雄
百九十一	男爵	鹿子木小五郎	百九十二	男爵	平井晴二郎
百九十三	男爵	河村善益	百九十四	男爵	水上長次郎
百九十五	男爵	富谷銚太郎	百九十六	男爵	宇佐川一正
百九十七	男爵	渡邊廉吉	百九十八	男爵	小牧昌業
百九十九	男爵	田邊輝實	二百	男爵	黒岡帶刀
二百一	男爵	江木千之	二百二	男爵	荒川義太郎
二百三	男爵	和田彦次郎	二百四	男爵	河村讓三郎
二百五	男爵	高千穂宣麿	二百六	男爵	石塚英藏
二百七	男爵	村木雅美	二百八	男爵	仲小路廉
二百九	男爵	西村精一	二百十	男爵	小松謙次郎
二百十一	男爵	坂本俊篤	二百十二	男爵	名和長憲
二百十三	男爵	大谷靖	二百十四	男爵	岡喜七郎
二百十五	男爵	渡正元	二百十六	男爵	古市公威

二百十七	男爵 西 紳六郎	二百十八	男爵 内田 嘉吉
二百十九	男爵 太秦 供康	二百二十	男爵 神田 乃武
二百二十一	男爵 田 健治郎	二百二十二	男爵 武井 守正
二百二十三	男爵 目賀田 種太郎	二百二十四	男爵 阪谷 芳郎
二百二十五	男爵 内田 正敏	二百二十六	男爵 藤井 包總
二百二十七	男爵 山内 長人	二百二十八	男爵 岡田 良平
二百二十九	男爵 福原 鏢二郎	二百三十	男爵 伊瀬 知好成
二百三十一	男爵 荒井 賢太郎	二百三十二	男爵 新田 忠純
二百三十三	男爵 南岩 倉具威	二百三十四	男爵 外松 孫太郎
二百三十五	男爵 中村 是公	二百三十六	男爵 水野 鍊太郎
二百三十七	男爵 上山 滿之進	二百三十八	男爵 平野 長祥
二百三十九	男爵 玉利 喜造	二百四十	男爵 山内 豐政
二百四十一	男爵 木場 貞長	二百四十二	男爵 竹腰 正己
二百四十三	男爵 笠井 信一	二百四十四	男爵 鈴木 喜三郎

二百四十五	男爵 毛利 五郎	二百四十六	男爵 若王子 文健
二百四十七	男爵 徳川 厚	二百四十八	男爵 船越 光之丞
二百四十九	男爵 千秋 季隆	二百五十	男爵 北大路 實信
二百五十一	男爵 斯波 忠三郎	二百五十二	男爵 眞田 幸世
二百五十三	男爵 安場 末喜	二百五十四	男爵 永山 武敏
二百五十五	男爵 坪井 九八郎	二百五十六	男爵 中島 久萬吉
二百五十七	男爵 黒川 幹太郎	二百五十八	男爵 長松 篤業
二百五十九	男爵 島津 長丸	二百六十	男爵 神山 郡昭
二百六十一	男爵 土屋 光金	二百六十二	男爵 楠本 正敏
二百六十三	男爵 伊達 宗曜	二百六十四	男爵 福原 俊丸
二百六十五	男爵 清水 資治	二百六十六	男爵 永山 盛興
二百六十七	男爵 横山 隆俊	二百六十八	男爵 黒田 長和
二百六十九	男爵 島津 久賢	二百七十	男爵 岩倉 道俱
二百七十一	男爵 安藤 直雄	二百七十二	男爵 赤松 範一

二百七十三	男爵	今園國真	二百七十四	男爵	佐竹義準
二百七十五	男爵	藤村義朗	二百七十六	男爵	二條正麿
二百七十七	男爵	郷誠之助	二百七十八	男爵	小畑大太郎
二百七十九	男爵	調所恒徳	二百八十	男爵	野田龜喜
二百八十一	男爵	藤堂高成	二百八十二	男爵	東郷安
二百八十三	男爵	伊藤文吉	二百八十四	男爵	池田長康
二百八十五	男爵	中川良長	二百八十六	男爵	辻太郎
二百八十七	男爵	矢吹省三	二百八十八	男爵	島津健之助
二百八十九	男爵	岩佐新	二百九十	男爵	周布兼道
二百九十一	男爵	寺島敏三	二百九十二	男爵	高崎弓彦
二百九十三	男爵	藤田平太郎	二百九十四		石井省一郎
二百九十五		谷森真男	二百九十六		三宅秀
二百九十七		何禮之	二百九十八		中島永元
二百九十九		湯地定基	三百		原保太郎

三百一	藤田四郎	三百二	鮫島武之助
三百三	關清英	三百四	湯地定監
三百五	仁尾惟茂	三百六	高橋琢也
三百七	石渡敏一	三百八	加藤恒忠
三百九	澤柳政太郎	三百十	木内重四郎
三百十一	加太邦憲	三百十二	阪本鈺之助
三百十三	若槻禮次郎	三百十四	福永吉之助
三百十五	橋本圭三郎	三百十六	倉知鐵吉
三百十七	山之内一次	三百十八	勝田主計
三百十九	高田早苗	三百二十	中村純九郎
三百二十一	鍋島桂次郎	三百二十二	古賀廉造
三百二十三	南弘	三百二十四	磯部四郎
三百二十五	杉田定一	三百二十六	小山健三
三百二十七	兒玉利國	三百二十八	室田義文

三百二十九	安樂兼道	三百三十	安立綱之
三百三十一	川上親晴	三百三十二	菅原通敬
三百三十三	伊澤多喜男	三百三十四	田所美治
三百三十五	西久保弘道	三百三十六	岡田文次
三百三十七	江木翼	三百三十八	市來乙彦
三百三十九	湯淺倉平	三百四十	永田秀次郎
三百四十一	竹越與三郎	三百四十二	德富猪一郎
三百四十三	小池靖一	三百四十四	大谷嘉兵衛
三百四十五	早川千吉郎	三百四十六	片岡直輝
三百四十七	大村彦太郎	三百四十八	麻生太吉
三百四十九	鈴木摠兵衛	三百五十	和田豐治
三百五十一	江原素六	三百五十二	八木久兵衛
三百五十三	伊藤傳七	三百五十四	石橋謹二
三百五十五	佐藤傳兵衛	三百五十六	佐藤友右衛門

三百五十七	桑原善吉	三百五十八	鎌田榮吉
三百五十九	田中源太郎	三百六十	星島謹一郎
三百六十一	今井五介	三百六十二	三田義正
三百六十三	竹村與右衛門	三百六十四	鎌田勝太郎
三百六十五	高倉虎	三百六十六	津村紀陵
三百六十七	山田純精	三百六十八	犬上慶五郎
三百六十九	金杉英五郎	三百七十	山田斂
三百七十一	石谷傳四郎	三百七十二	岡本榮吉
三百七十三	伊丹彌太郎	三百七十四	二階堂 三郎左衛門
三百七十五	矢口長右衛門	三百七十六	中村圓一郎
三百七十七	藤本閑作	三百七十八	高橋源次郎
三百七十九	橋本辰二郎	三百八十	土田萬助
三百八十一	西川甚五郎	三百八十二	安田善三郎
三百八十三	近岡理三郎	三百八十四	宮川久一郎

三百八十五	田中清文	三百八十六	勝田銀次郎
三百八十七	平尾喜三郎	三百八十八	横山章
三百八十九	根津啓吉	三百九十	高橋隆一
三百九十一	三木與吉郎	三百九十二	中山嘉兵衛
三百九十三	島定治郎	三百九十四	富永猿雄
三百九十五	成清信愛	三百九十六	櫻井伊兵衛

○第三節 議員異動

○第一 死亡及弔辭

大正十年四月十日議員海軍中將正二位勳一等功三級男爵伊藤雋吉薨去ス因テ
 同月十三日左ノ弔辭ヲ贈レリ

・貴族院ハ議員海軍中將正二位勳一等功三級男爵伊藤雋吉君ノ長逝ヲ追悼シ
 恭シク弔辭ヲ呈ス(弔辭ハ後ニ掲ケタルモノヲ除クノ外本
 文ノ例ニ同シキヲ以テ他ハ之ヲ略ス)

同年六月十八日議員議定官宮中顧問官從一位勳一等侯爵鍋島直大薨去ス因テ
 同月二十一弔辭ヲ贈レリ

同年七月三十日議員秋山源兵衛死去ス因テ八月一日弔辭ヲ贈レリ
 同年八月十二日議員正三位勳二等男爵前田正名薨去ス因テ同月十六日弔辭ヲ
 贈レリ
 同年九月十三日議員宮中顧問官從三位勳二等山田春三薨去ス因テ同月十四日
 弔辭ヲ贈レリ
 同年十月十九日議員勳四等平井六右衛門死去ス因テ同月二十一日弔辭ヲ贈レリ
 同年十月二十八日議員臨時教育行政調査會委員從三位勳二等森正隆薨去ス因
 テ同月二十九日弔辭ヲ贈レリ
 大正十一年一月十日議員恩賜財團濟生會顧問維新史料編纂會顧問從一位大勳
 位侯爵大隈重信薨去ス因テ同月十三日弔辭ヲ贈レリ
 同年一月十三日議員測地學委員會委員官有財產調査會委員海軍中將正三位勳
 二等男爵肝付兼行薨去ス因テ同月十四日弔辭ヲ贈レリ
 同年一月十四日議員震災豫防調査會委員鐵道會議議員道路會議議員臨時產業
 調査會委員東京市道路評議會評議員錦鷄間祇候從三位勳二等工學博士石黒五

十二薨去ス因テ同月十六日弔辭ヲ贈レリ
 同年一月十四日議員正四位勳四等男爵本田親濟卒去ス因テ同月十六日弔辭ヲ贈レリ
 同年一月二十二日議員華族世襲財産審議會議長正三位勳三等公爵德川慶久薨去ス因テ同月二十三日弔辭ヲ贈レリ
 同年二月一日議員議定官樞密院議長元帥陸軍大將從一位大勳位功一級公爵山縣有朋薨去ス而シテ同月三日ノ會議ニ於テ議院ハ特ニ弔辭ノ起草ヲ議長ニ委任スルコトヲ議決シ同月四日ノ會議ニ於テ議院ハ議長ノ起草ニ係ル左ノ弔辭ヲ全會一致ヲ以テ可決シ即日議長ハ山縣公爵家ヲ訪問シテ之ヲ贈呈セリ
 議員議定官樞密院議長元帥陸軍大將從一位大勳位功一級公爵山縣有朋君ハ維新ノ元勳ヲ以テ朝ニ立ツコト五十餘年官將相ヲ兼ネ功文武ニ著ハル國家ノ深ク倚重シ朝野ノ齊ク望ヲ繫クル所タリ貴族院ハ其ノ薨去ヲ追悼シ恭ク弔辭ヲ呈ス
 同年三月二日議員陸軍中將正三位勳一等功三級男爵阪井重季薨去ス因テ同月

四日弔辭ヲ贈レリ

○第二 辭職

大正十年七月六日

野々村 久次郎

同年十月十八日

高谷 豐之助

大正十一年一月二十三日

正三位勳一等

阿 部 浩

同年二月二十七日

從二位勳一等

山縣伊三郎

同年三月二日

從三位勳三等

伯爵 柳原 義 光

同年三月二十三日

從三位勳三等

男爵 小早川 四 郎

○第三 資格消滅

大正十年十月七日隱居

從一位勳一等

侯爵 久 我 通 久

○第四 除名

大正十年五月十七日貴族院令第十條第一項ニ依リ除名

竹内 權兵衛

○第五 當選

正 五 位 男爵 周 布 兼 道

大正十年四月二十三日男爵議員補闕選舉ニ當選

從三位子爵 五島盛光

同年五月十四日子爵議員補闕選舉ニ當選

正四位勳二等 男爵 土屋光金

從四位勳六等 男爵 伊藤文吉

大正十一年三月十八日男爵議員補闕選舉ニ當選

○第六 就職

大正十年七月十一日

從三位 侯爵 鍋島直映

同年十月二十日

正五位 侯爵 久我常通

大正十一年一月二十六日

從四位勳三等 侯爵 大隈信常

同年一月三十日

○第七 勅任

同年二月二十八日

從二位勳一等 公爵 山縣伊三郎

同年三月十日

從三位勳二等 鹿子木 小五郎

大正十年五月二十四日勅任

同 正四位勳二等 笠井信一

同 正四位勳三等 森 正隆

同年六月十四日勅任 從三位勳二等 河村善益

同 從三位勳二等 水上長次郎

同 從三位勳二等 高倉 虎

同年八月三十日勅任(同年八月三日茨城縣多額納稅者議員補闕選舉ニ當選)

同 桑原善吉

同年十月十九日勅任(同年九月二十四日岐阜縣多額納稅者議員補闕選舉ニ當選)

同 根津啓吉

同年十一月十二日勅任(同年十月二十日山梨縣多額納稅者議員補闕選舉ニ當選)

同 宮川久一郎

同年十二月二十一日勅任(同年十二月十五日青森縣多額納稅者議員補闕選舉ニ

當選)

三田義正

大正十一年一月二十五日勅任(同年一月七日巖手縣多額納稅者議員補闕選舉ニ當選)

同年二月二日勅任

正三位勳一等 富谷銈太郎

從三位勳一等 渡邊廉吉

正三位勳一等 嘉納治五郎

從三位勳二等 玉利喜造

從四位勳三等 竹越與三郎

正六位 和田豐治

金杉英五郎

○第四節 全院委員長

大正十年十二月二十七日議院法第二十一條第一項及貴族院規則第二十一條ニ依リ全院委員長ノ選舉ヲ行ヒシニ其ノ結果左ノ如シ

百五十七票

二票

侯爵 蜂須賀正韶

公爵 德川慶久

一票

侯爵 德川賴倫

乃チ最多數ヲ以テ侯爵蜂須賀正韶當選セリ

○第五節 常任委員

大正十年十二月二十七日貴族院規則第二章第三節ノ各條ニ依リ各部ニ於テ常任委員ノ選舉ヲ行ヘリ其ノ委員及當選人左ノ如シ

○資格審査委員

第一部 松室 致 第二部 山脇 玄

第三部 大島 健一 第四部 男爵 太秦 供康

第五部 子爵 黒田 清輝 第六部 加太 邦憲

第七部 磯部 四郎 第八部 伯爵 吉井 幸藏

第九部 男爵 外松 孫太郎

本委員會ハ大正十一年一月二十一日貴族院規則第三十九條第一項ニ依リ正副委員長ヲ互選セリ其ノ當選人左ノ如シ

委員長 伯爵 吉井 幸藏 副委員長 大島 健一

○豫算委員

第一部

侯爵 徳川 圀 順 男爵 小澤 武雄 子爵 樋口 誠康
 男爵 目賀田 種太郎 男爵 阪谷 芳郎 岡田 良平
 男爵 船越 光之丞

第二部

侯爵 佐佐木 行忠 子爵 牧野 忠篤 子爵 渡邊 千冬
 荒川 義太郎 男爵 本田 親濟 男爵 矢吹 省三
 湯淺 倉平

第三部

公爵 近衛 文麿 子爵 前田 利定 子爵 榎本 武憲
 淺田 徳則 仲小路 廉 小松 謙次郎
 上山 滿之進

第四部

伯爵 副島 道正 子爵 大河内 正敏 江木 千之
 男爵 平野 長祥 仁尾 惟茂 高田 早苗
 西久保 弘道

第五部

和田 彦次郎 男爵 長松 篤柴 男爵 藤村 義朗
 藤田 四郎 橋本 圭三郎 杉田 定一
 石谷 傳四郎

第六部

男爵 小早川 四郎 男爵 千秋 季隆 男爵 藤堂 高成
 若槻 禮次郎 江木 翼 鎌田 榮吉
 橋本 辰二郎

第七部

子爵 酒井 忠亮 子爵 八條 隆正 子爵 板倉 勝憲
 北里 柴三郎 男爵 坂本 俊篤 男爵 池田 長康

山田 三 斂

第八部

伯爵 奧平昌恭

伯爵 林博太郎

子爵 青木信光

子爵 野村益三

男爵 村上敬次郎

荒井賢太郎

男爵 福原俊丸

第九部

伯爵 寺島誠一郎

男爵 斯波忠三郎

市來乙彦

高橋源次郎

中山嘉兵衛

岡本榮吉

櫻井伊兵衛

本委員會ハ大正十一年二月三日貴族院規則第三十九條第一項ニ依リ正副委員長ヲ互選セリ其ノ當選人左ノ如シ

委員長 子爵 前田利定

副委員長

江木千之

本委員會ハ二月四日貴族院規則第五十一條第一項ニ依リ科ヲ分テ六科ト爲シ又同日委員長ハ各分科擔當委員並兼務委員ヲ選定シ又同月十六日各分科

ニ於テ正副主查ヲ互選セリ乃チ左ノ如シ

第一分科(歳入、大藏省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳ヲ除ク)

主查 侯爵 佐佐木行忠 副主查伯爵 奧平昌恭 子爵 青木信光

子爵 前田利定 子爵 八條隆正 男爵 阪谷芳郎

男爵 藤村義朗 仁尾惟茂 若槻禮次郎

湯淺倉平 鎌田榮吉 橋本辰二郎

兼務

上山滿之進 男爵 長松篤斐 男爵 池田長康

江木三翼 市來乙彦

第二分科(外務省、司法省)

主查 伯爵 近衛文麿 副主查伯爵 寺島誠一郎 侯爵 德川圀順

男爵 小澤武雄 男爵 船越光之丞 男爵 池田長康

兼務

櫻井伊兵衛

伯爵 副島道正
仲小路 廉 男爵 坂本俊篤
藤田四郎

第三分科(內務省)

主查 子爵 榎本武憲 副主查 男爵 千秋季隆 伯爵 林博太郎
子爵 大河內正敏 子爵 野村益三 子爵 渡邊千冬
北里柴三郎 江木千之 荒川義太郎
岡田良平 男爵 矢吹省三 高田早苗

兼務

男爵 目賀田種太郎 男爵 船越光之丞 男爵 福原俊丸
湯淺倉平 石谷傳四郎

第四分科(陸軍省)

主查 男爵 村上敬次郎 副主查 男爵 名和長憲 伯爵 副島道正
子爵 樋口誠康 子爵 酒井忠亮 男爵 坂本俊篤
男爵 目賀田種太郎 橋本圭三郎 杉田定一

兼務 江木翼 市來乙彦

公爵 近衛文麿 江木千之 男爵 平野長祥
男爵 斯波忠三郎 若槻禮次郎

第五分科(農商務省)

主查 小松謙次郎 副主查 男爵 平野長祥 子爵 牧野忠篤
石塚英藏 仲小路 廉 上山滿之進
男爵 長松篤棊 山田 斂 岡本榮吉
成清信愛

兼務

子爵 榎本武憲 荒川義太郎 男爵 藤村義朗
男爵 矢吹省三 西久保弘道 橋本辰二郎

第六分科(鐵道省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳)

主查 藤田四郎 副主查 男爵 小早川四郎 子爵 板倉勝憲

和田彦次郎 荒井賢太郎 男爵 斯波忠三郎
 男爵 福原俊丸 男爵 藤堂高成 西久保弘道
 石谷傳四郎 高橋源次郎

兼務

子爵 樋口誠康 子爵 大河内正敏 子爵 野村益三
 石塚英藏 男爵 名和長憲 男爵 千秋季隆
 高田早苗

一月十四日豫算委員男爵本田親濟卒去ス因テ同月二十四日第二部ニ於テ補
 闕選舉ヲ行ヒシニ男爵名和長憲當選セリ
 一月二十一日淺田德則豫算委員ヲ辭任ス因テ同月二十七日第三部ニ於テ補
 闕選舉ヲ行ヒシニ石塚英藏當選セリ
 一月三十一日中山嘉兵衛豫算委員ヲ辭任ス因テ二月三日第九部ニ於テ補闕
 選舉ヲ行ヒシニ成清信愛當選セリ
 二月十三日杉田定一豫算委員ヲ辭任ス因テ同月十六日第五部ニ於テ補闕選

舉ヲ行ヒシニ高橋琢也當選シ同日委員長ハ同人ヲ第五分科擔當委員ニ選定
 セリ

二月十六日委員長ハ第一分科擔當委員仁尾惟茂ヲ第六分科兼務委員ニ選定
 セリ

二月二十一日高橋琢也豫算委員ヲ辭任ス因テ同月二十五日第五部ニ於テ補
 闕選舉ヲ行ヒシニ石渡敏一當選シ三月二日委員長ハ同人ヲ第三分科擔當委
 員及第四分科兼務委員ニ選定セリ

二月二十二日委員長ハ第一分科擔當委員鎌田榮吉ヲ第三分科兼務委員ニ選
 定セリ

三月二十二日男爵小早川四郎豫算委員ヲ辭任ス因テ同月二十四日第六部ニ
 於テ補闕選舉ヲ行ヒシニ子爵豊岡圭資當選セリ

○懲罰委員

第一部 子爵 片桐貞央 第二部 男爵 阪井重季
 第三部 伯爵 松平頼壽 第四部 大久保利武

第五部 河村讓三郎

第六部 男爵 岩倉道俱

第七部 中村是公

第八部 岡田文次

第九部 子爵 稻垣太祥

本委員會ハ大正十一年一月二十一日貴族院規則第三十九條第一項ニ依リ正副委員長ヲ互選セリ其ノ當選人左ノ如シ

委員長 伯爵 松平頼壽 副委員長 河村讓三郎

三月二日懲罰委員男爵阪井重季薨去ス因テ同月十一日第二部ニ於テ補闕選舉ヲ行ヒシニ男爵楠本正敏當選セリ

○請願委員

第一部

子爵 京極高義 子爵 清岡長言 子爵 立花種忠

男爵 辻太郎 山田純精

第二部

男爵 山内豊政 男爵 佐竹義準 川上親晴

田中源太郎 島 定治郎

第三部

北條時敬 男爵 藤井包總 鈴木惣兵衛

星島謹一郎 犬上慶五郎

第四部

公爵 二條厚基 子爵 大浦兼一 高橋琢也

根津啓吉 高橋隆一

第五部

侯爵 鍋島直映 子爵 吉田清風 子爵 新庄直知

大山綱昌 笠井信一

第六部

子爵 米倉昌達 大谷嘉兵衛 八木久兵衛

二階堂三郎左衛門 田中清文

第七部

子爵 藪 篤 麿 男爵 調 所 恒 德 男爵 中 川 良 長
男爵 島 津 健 之 助 三 木 與 吉 郎

第八部
子爵 五 條 爲 功 子爵 竹 屋 春 光 男爵 黑 川 幹 太 郎
男爵 周 布 兼 道 安 立 綱 之

第九部
伯爵 勸 修 寺 經 雄 子爵 東 坊 城 德 長 男爵 村 木 雅 美
男爵 小 畑 大 太 郎 平 尾 喜 三 郎

本委員會ハ大正十一年一月二十一日貴族院規則第三十九條第一項ニ依リ正
副委員長ヲ互選セリ其ノ當選人左ノ如シ

委員長 公爵 二 條 厚 基 副委員長 伯爵 勸 修 寺 經 雄

本委員會ハ一月二十一日貴族院規則第五十一條第一項ニ依リ科ヲ分テ四科
ト爲シ又同日委員長ハ各分科擔當委員ヲ選定シ又第二分科及第四分科ニ於
テハ同日第一分科及第三分科ニ於テハ同日二十三日各正副主查ヲ互選セリ

乃チ左ノ如シ

第一分科(大藏省、農商務省)

主查 子爵 立 花 種 忠 副主查 高 橋 琢 也 伯爵 勸 修 寺 經 雄
子爵 大 浦 兼 一 男爵 小 畑 大 太 郎 安 立 綱 之
大 谷 嘉 兵 衛 鈴 木 摠 兵 衛 山 田 純 精

二階堂 三郎左衛門

第二分科(外務省、內務省、文部省)

主查 子爵 清 岡 長 言 副主查 男爵 佐 竹 義 準 公爵 二 條 厚 基
子爵 東 坊 城 德 長 子爵 五 條 爲 功 北 條 時 敬
笠 井 信 一 男爵 中 川 良 長 男爵 周 布 兼 道

田 中 源 太 郎 田 中 清 文 島 定 治 郎

第三分科(內閣、司法省、逓信省)

主查 子爵 吉 田 清 風 副主查 男爵 辻 太 郎 子爵 藪 篤 麿
子爵 竹 屋 春 光 大 山 綱 昌 男爵 島 津 健 之 助

川上親晴 八木久兵衛 犬上慶五郎
高橋隆一 三木與吉郎

第四分科(陸軍省、海軍省、鐵道省)

主査 子爵 新庄直知 副主査 男爵 村木雅美 侯爵 鍋島直映
子爵 京極高義 子爵 米倉昌達 男爵 藤井包總
男爵 山内豐政 男爵 黒川幹太郎 男爵 調所恒徳
星島謹一郎 平尾喜三郎

二月二十五日島定治郎請願委員ヲ辭任ス因テ三月六日第二部ニ於テ補闕選
舉ヲ行ヒシニ子爵實吉安純當選シ同月七日委員長ハ同人ヲ第二分科擔當委
員ニ選定セリ

三月六日星島謹一郎請願委員ヲ辭任ス因テ同月十一日第三部ニ於テ補闕選
舉ヲ行ヒシニ三宅秀當選シ同月十三日委員長ハ同人ヲ第四分科擔當委員ニ
選定セリ

三月十一日山田純精請願委員ヲ辭任ス因テ同月十六日第一部ニ於テ補闕選

舉ヲ行ヒシニ子爵京極高備當選シ同月二十日委員長ハ同人ヲ第一分科擔當
委員ニ選定セリ

○決算委員

第一部

男爵 黒田長和 男爵 今園國貞 桑原善吉
矢口長右衛門 藤本閑作

第二部

男爵 永山武敏 男爵 横山隆俊 中村純九郎
伊丹彌太郎 横山章

第三部

子爵 池田政時 男爵 内田嘉吉 男爵 安藤直雄
鍋島桂次郎 近岡理三郎

第四部

侯爵 久我常通 子爵 西尾忠方 男爵 西村精一

小池靖一 西川甚五郎

第五部

子爵 高倉永則 子爵 西大路吉光 子爵 柳生俊久

子爵 本多忠鋒 男爵 眞田幸世

第六部

子爵 白川資長 子爵 秋田重季 男爵 毛利五郎

中村圓一郎 土田萬助

第七部

伯爵 兒玉秀雄 男爵 木越安綱 服部一三

男爵 高千穂宣麿 石橋謹二

第八部

子爵 伊集院兼知 子爵 今城定政 子爵 秋月種英

男爵 若王子文健 倉知鐵吉

第九部

伯爵 中川久任 男爵 北大路實信 男爵 赤松範一

佐藤友右衛門 今井五介

本委員會ハ大正十一年一月二十一日貴族院規則第三十九條第一項ニ依リ正

副委員長ヲ互選セリ其ノ當選人左ノ如シ

委員長 伯爵 兒玉秀雄 副委員長 男爵 木越安綱

本委員會ハ一月二十一日貴族院規則第五十一條第一項ニ依リ科ヲ分テ四科

ト爲シ又同日委員長ハ各分科擔當委員竝第一分科及第三分科兼務委員ヲ選

定シ又二月十七日各分科ニ於テ正副主査ヲ互選セリ乃チ左ノ如シ

第一分科(職入、大藏省、鐵道省)

主査 子爵 西尾忠方 副主査 倉知鐵吉 伯爵 兒玉秀雄

子爵 本多忠鋒 男爵 毛利五郎 男爵 今園國貞

小池靖一 石橋謹二 佐藤友右衛門

伊丹彌太郎 矢口長右衛門 横山章

兼務 男爵 横山隆俊

第二分科(外務省、內務省、司法省)

主査

服部 一三 副主査子爵秋月種英

侯爵久我常通

伯爵中川久任 子爵白川資長

子爵池田政時

男爵高千穂宣麿 男爵若王子文健

男爵黑田長和

鍋島桂次郎 今井五介

第三分科(陸軍省、海軍省)

主査

子爵今城定政 副主査男爵永山武敏 男爵木越安綱

子爵高倉永則 子爵柳生俊久 子爵秋田重季

男爵西村精一 男爵眞田幸世 中村純九郎

土田萬助 西川甚五郎

兼務 矢口長右衛門

第四分科(文部省、農商務省、遞信省)

主査

子爵西大路吉光 副主査 內田嘉吉 子爵伊集院兼知

男爵北大路實信 男爵橫山隆俊 男爵安藤直雄

男爵赤松範一

桑原善吉

中村圓一郎

藤本閑作

近岡理三郎

○第六節 國務大臣及政府委員

本會期ニ於ケル國務大臣及政府委員左ノ如シ

○國務大臣

內閣總理大臣兼 子爵 高橋是清

臨時海軍大臣事務管理

內閣總理大臣 子爵 高橋是清

海軍大臣 男爵 加藤友三郎

外務大臣 伯爵 內田康哉

農商務大臣 男爵 山本達雄

內務大臣 床次竹二郎

文部大臣 中橋德五郎

遞信大臣 野田卯太郎

附記

大正十年十一月十二日發セラレタル帝國議會召集ノ詔書ニ副署シタル
國務大臣左ノ如シ

鐵道大臣	元田 肇
司法大臣	伯爵 大木 遠吉
陸軍大臣	山梨 半造
內閣總理大臣	伯爵 內田 康哉
外務大臣	伯爵 內田 康哉
臨時海軍大臣事務管理	
內閣總理大臣	伯爵 內田 康哉
大藏大臣	子爵 高橋 是清
農商務大臣	男爵 山本 達雄
內務大臣	床次 竹二郎
文部大臣	中橋 德五郎

同月十三日大藏大臣子爵高橋是清內閣總理大臣兼大藏大臣ニ任セラレ
外務大臣兼內閣總理大臣伯爵內田康哉兼官ヲ免セラレ又同日海軍大臣
男爵加藤友三郎不在中高橋內閣總理大臣ニ臨時海軍大臣事務管理仰付
ラレ大正十一年三月十日加藤海軍大臣歸朝ニ付高橋內閣總理大臣ノ臨
時海軍大臣事務管理ハ自然解任ト爲レリ

○政府委員

政府委員

遞信大臣	野田 卯太郎
鐵道大臣	元 田 肇
司法大臣	伯爵 大木 遠吉
陸軍大臣	山梨 半造
內閣書記官長	三 土 忠 造
內閣恩給局長	入 江 貫 一
法制局長官	横田 千之助

法制局參事官 馬場 鏞一
 拓殖局長官 川村 竹治
 拓殖局次長 元田 敏夫
 國勢院總裁 小川 平吉
 國勢院部長 牛塚 虎太郎
 國勢院部長 阿部 壽準
 朝鮮總督男爵 齋藤 實
 朝鮮總督府政務總監 水野 鍊太郎
 朝鮮總督府財務局長 河內 山樂三
 朝鮮總督府殖產局長 西村 保吉
 朝鮮總督府參事官 和田 一郎
 臺灣總督男爵 田 健治郎
 臺灣總督府總務長官 賀來 佐賀太郎
 臺灣總督府財務局長 阿部 滂

外務省所管事務政府委員

關東長官公爵 山縣 伊三郎
 關東廳事務總長 土岐 嘉平
 關東廳事務官 西山 左內
 樺太廳長官 永井 金次郎
 樺太廳事務官 石坂 豐一
 外務次官 埴原 正直
 外務省亞細亞局長 芳澤 謙吉
 外務省歐米局長 松平 恒雄
 外務省條約局長 山川 端夫
 外務省情報部次長 田中 都吉
 外務省參事官 林 毅 陸
 外務書記官 青木 新
 外務書記官 松永 直吉

內務省所管事務政府委員

外務書記官 河合博之
 外務書記官 赤松祐之
 大使館參事官 古谷重綱
 內務省 內務次官 小橋一太
 內務省 神社局長 山田準次郎
 內務省 地方局長 塚本清治
 內務省 社會局長 田子一民
 內務省 警保局長 湯地幸平
 內務省 土木局長 堀田貢
 內務省 衛生局長 潮惠之輔
 內務省 參事官 松田源治
 內務省 參事官 山縣治郎
 內務省 書記官 田子一民

附記

大正十一年二月二十一日內務書記官田子一民內務省社會局長ニ任セラレタリ

大藏省所管事務政府委員

大藏次官 神野勝之助
 大藏省主計局長 西野元
 大藏省主稅局長 松本重威
 大藏省理財局長 小野義一
 大藏省銀行局長 黒田英雄

陸軍省所管事務政府委員

大藏省參事官 堀切善兵衛
 大藏書記官 草間秀雄
 大藏書記官 保倉熊三郎
 大藏書記官 佐々木謙一郎
 大藏書記官 河田烈
 大藏書記官 太田嘉太郎
 大藏書記官 中島鐵平
 大藏書記官 岡田信
 主計局書記官 河本文一
 大藏技師 矢部規矩治
 專賣局長官 野中清
 陸軍次官 尾野實信
 陸軍中將 石光真臣

海軍省所管事務政府委員

陸軍主計總監 田中政明
 陸軍一等主計正 飯塚唯助
 海軍次官 井出謙治
 海軍中將 岡田啓介
 海軍中將 堀内三郎
 海軍主計中將 志佐勝
 海軍主計大佐 加藤亮一
 司法次官 山内確三郎
 司法省民事局長 池田寅二郎
 司法省刑事局長 林頼三郎
 司法省監獄局長 山岡萬之助
 司法省參事官 上埜安太郎

司法省所管事務政府委員

文部省所管事務政府委員

司法省參事官 秋山高三郎
 司法省參事官 岩村通世
 司法省參事官 三宅正太郎
 司法省參事官 清水行恕
 司法書記官 皆川治廣
 司法書記官 近藤三郎
 司法事務官 宮城長五郎
 文部次官 南 三弘
 文部省專門學務局長 松浦鎮次郎
 文部省普通學務局長 赤司鷹一郎
 文部省實業學務局長 山崎達之輔
 文部省圖書局長 幣原 坦
 文部省宗教局長 粟屋謙

農務省所管事務政府委員

文部省參事官 武部 欽一
 文部書記官 澤田源一
 維新史料編纂事務局長 柴田駒三郎
 農商務次官 田中隆三
 農商務省商務局長 鶴見左吉雄
 農商務省工務局長 男爵 四條隆英
 農商務省山林局長 中井 勵作
 農商務省鑛山局長 崎川才四郎
 農商務省水產局長 村上隆吉
 農商務省食糧局長 長滿 欽司
 農商務省參事官 望月圭介
 農商務書記官 副島千八
 農商務書記官 川久保修吉

○第五章 議事

○第一節 法律案

○第一 政府提出案

鐵道省參事官 木下謙次郎

政府提出法律案ハ七十六件ニシテ其ノ可決シタルモノ七十三件、議決ニ至ラサ
リシモノ三件トス
可決シタルモノ

- 一 破産法案(八十二頁)
- 一 和議法案(八十二頁)
- 一 銃砲火藥類取締法中改正法律案(八十四頁)
- 一 取引所法中改正法律案(八十六頁)
- 一 家畜傳染病豫防法案(八十九頁)
- 一 鐵道敷設法案(九十一頁)
- 一 酒造税法中改正法律案(百八頁)

一 織物消費税法中改正法律案(百八頁)

一 國有財産整理資金特別會計法案(百十頁)

一 六大都市行政監督ニ關スル法律案(百十一頁)

一 少年法案(百十三頁)

一 矯正院法案(百十三頁)

一 過激社會運動取締法案(百十六頁)

一 借地借家調停法案(百二十四頁)

一 農會法案(百二十六頁)

一 司法事務共助法中改正法律案(百二十九頁)

一 朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案(百三十一頁)

一 大學特別會計法中改正法律案(百三十三頁)

一 大正八年法律第十二號中改正法律案(百三十三頁)

一 森林資金特別會計法廢止法律案(百三十四頁)

一 和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行

- 一 二關スル法律案(百三十六頁)
- 一 道路法中改正法律案(百三十八頁)
- 一 朝鮮事業公債法中改正法律案(百三十九頁)
- 一 臺灣事業公債法改正法律案(百三十九頁)
- 一 樺太事業公債法中改正法律案(百三十九頁)
- 一 關東州事業公債法案(百四十頁)
- 一 南洋廳特別會計法案(百四十頁)
- 一 大正五年法律第四號中改正法律案(百四十頁)
- 一 感化法中改正法律案(百四十二頁)
- 一 裁判所ノ設立ニ關スル法律案(百四十四頁)
- 一 大正二年法律第九號中改正法律案(百四十四頁)
- 一 明治四十四年法律第六十一號中改正法律案(百四十五頁)
- 一 明治四十年法律第四十九號中改正法律案(百四十七頁)
- 一 府縣制中改正法律案(百四十八頁)

- 一 北海道會法中改正法律案(百四十八頁)
- 一 北海道地方費法中改正法律案(百四十八頁)
- 一 市制中改正法律案(百四十八頁)
- 一 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(百五十一頁)
- 一 大正九年法律第十二號中改正法律案(百五十二頁)
- 一 傳染病豫防法中改正法律案(百五十四頁)
- 一 海港檢疫法中改正法律案(百五十四頁)
- 一 貨幣法中改正法律案(百五十五頁)
- 一 刑事訴訟法案(百五十七頁)
- 一 露國政變及西比利亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案(百五十九頁)
- 一 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案(百六十二頁)
- 一 信託法案(百六十三頁)
- 一 信託業法案(百六十三頁)

- 一 擔保附社債信託法中改正法律案(百六十三頁)
- 一 不動產登記法中改正法律案(百六十三頁)
- 一 非訟事件手續法中改正法律案(百六十三頁)
- 一 所得稅法中改正法律案(百六十四頁)
- 一 相續稅法中改正法律案(百六十四頁)
- 一 登錄稅法中改正法律案(百六十四頁)
- 一 印紙稅法中改正法律案(百六十四頁)
- 一 日本興業銀行法中改正法律案(百六十四頁)
- 一 臺灣銀行法中改正法律案(百六十四頁)
- 一 北海道拓殖銀行法中改正法律案(百六十四頁)
- 一 船員職業紹介法案(百六十八頁)
- 一 明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案(百七十頁)
- 一 大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(百七十一頁)

- 一 簡易生命保險法中改正法律案(百七十三頁)
- 一 臺灣私設鐵道補助法案(百七十四頁)
- 一 銅、真鍮及青銅ノ輸入稅ニ關スル法律案(百七十六頁)
- 一 健康保險法案(百七十八頁)
- 一 内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案(百八十一頁)
- 一 裁判所構成法中改正法律案(百八十三頁)
- 一 明治三十五年法律第四十九號中改正法律案(百八十四頁)
- 一 統計資料實地調査ニ關スル法律案(百八十四頁)
- 一 大正九年法律第五十二號中改正法律案(百八十六頁)
- 一 狩獵法中改正法律案(百八十八頁)
- 一 取引所稅法中改正法律案(百九十一頁)
- 一 東京帝國大學臨時政府支出金繰入ニ關スル法律案(百九十三頁)
- 一 增加恩給等ノ増額ニ關スル法律案(百九十五頁)

議決ニ至ラサリシモノ

- 一 瓦斯事業法案(百九十七頁)
- 一 陪審法案(百九十九頁)
- 一 土地收用法中改正法律案(二百八頁)

右各案ニ付左ニ其ノ議事ノ經過及結果ヲ略述ス

○可決シタルモノ

○一 破産法案

○二 和議法案

大正十一年一月十八日兩案各、内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清、臨時海軍大臣事務管理内閣總理大臣子爵高橋是清、外務大臣伯爵内田康哉、内務大臣床次竹二郎、文部大臣中橋徳五郎、遞信大臣野田卯太郎、鐵道大臣元田肇、司法大臣伯爵大木遠吉、陸軍大臣山梨半造連署提出

大正十一年一月二十三日兩案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員司法次官山内確三郎兩案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ特別委員ノ選舉ニ移ルヤ淺田徳則ハ本會期ヲ通

シ特別委員ノ選定ハ特別ノ場合ヲ除キ總テ議長ニ委任スルノ動議ヲ提出シ議院之ヲ可決ス次テ議院ハ更ニ淺田徳則ノ動議ニ依リ貴族院規則第五十二條但書ニ從ヒ破産法案特別委員ノ數ヲ十五名ト爲スコト及和議法案ハ之ヲ破産法案特別委員ニ付託スルコトヲ議決ス議長乃チ左ノ如ク指名ス

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 伯爵 松平 賴壽 | 男爵 小澤 武雄 | 子爵 酒井 忠亮 |
| 子爵 伊東 祐弘 | 子爵 板倉 勝憲 | 松室 致 |
| 河村讓三郎 | 男爵 若王子文健 | 男爵 長松 篤棊 |
| 男爵 矢吹省三 | 藤田四郎 | 加太邦憲 |
| 橋本圭三郎 | 菅原通敬 | 鈴木摠兵衛 |

本委員會ハ一月二十四日伯爵松平賴壽ヲ委員長ニ、河村讓三郎ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト各、二回ニシテ審査ヲ了リ二月十七日委員長ハ破産法案ハ修正案ヲ具ヘ、和議法案ハ之ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

二月二十一日兩案各第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵松平賴壽兩案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ併テ破産法案修正ノ理由ヲ説明ス矢口長

右衛門ハ和議ノ字義並其ノ和解ナル語トノ區別等ニ付質疑ヲ爲シ特別委員長伯爵松平頼壽政府委員山内確三郎交之ニ答辯シ此ニ兩案ノ大體議ヲ了リ先ツ破産法案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク委員會ノ修正ヲ可決シ次テ和議法案ニ移リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ兩案ハ載セテ速記録第三號及第二十號ニ在リ

二月二十一日兩案ヲ衆議院ニ送付シ三月十八日同院ヨリ本院ノ議決ニ同意シテ兩案ヲ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

附記

破産法ハ大正十一年四月二十五日法律第七十一號ヲ以テ和議法ハ同日法律第七十二號ヲ以テ孰モ公布セラレタリ

〇三 銃砲火藥類取締法中改正法律案

大正十一年一月二十一日内閣總理大臣子爵高橋是清、臨時海軍大臣事務管理内閣總理大臣子爵高橋是清、内務大臣床次竹二郎、陸軍大臣山梨半造連署提出

大正十一年二月一日本案ノ第一讀會ヲ開ク内務大臣床次竹二郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議院ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 伯爵 川村鐵太郎 | 子爵 京極高備 | 子爵 吉田清風 |
| 男爵 内田正敏 | 男爵 藤井包總 | 男爵 山内豐政 |
| 西久保弘道 | 櫻井伊兵衛 | |

本委員會ハ二月六日伯爵川村鐵太郎ヲ委員長ニ、男爵内田正敏ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ同月十六日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

二月十八日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵川村鐵太郎本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開ク

コトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク木案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第十九號ニ在リ

二月十八日本案ヲ衆議院ニ送付シ三月九日同院ヨリ本院ノ議決ニ同意シテ本案ヲ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

附記

銃砲火藥類取締法中改正法律ハ大正十一年三月二十二日法律第二號ヲ以テ公布セラレタリ

○四、取引所法中改正法律案

大正十一年二月一日内閣總理大臣子爵高橋是清農商務大臣男爵山本達雄連署提出
大正十一年二月六日本案ノ第一讀會ヲ開ク農商務大臣男爵山本達雄本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス若槻禮次郎ハ政府ハ本改正案ノ趣旨ニ從ヒ東京、大阪ノ兩取引所ヲ會員組織ト爲スノ考ナルカ果シテ然ラハ政府ハ現在ノ株式組織ノ取引所

ヲ漸次會員組織ニ改ムルノ方針ヲ遂行スルノ腹案ヲ有スルヤ又農商務大臣ノ説明スル所ニ據レハ現在ノ取引所カ保證責任ヲ原則トセルヲ改正案ニ依リ相手方相互ノ信用取引ヲ以テ原則トシ而シテ農商務大臣ノ職權ニ依リ或ル取引所ハ保證取引ヲ許シ或ル取引所ハ信用取引ヲ許スト云フニ在ルカ如シ其ノ相手方相互ノ信用取引ヲ原則ト爲ストノ意味如何又農商務大臣ハ本案實施後ニ於テモ東京、大阪兩取引所ノ如キ大取引所ハ之ヲ現在ノ儘トシ他ノ新設取引所ノミニ對シ會員組織ノ成立ヲ促進スルノ主義ナルカ又本案ハ單ニ定期ノ期限ヲ短縮スルコトヲ目的トシテ提出セラレタルヤニ看取セラル要スルニ農商務大臣ハ本案ヲ提出スルモ現在ノ東京、大阪兩取引所ノ如キ大取引所ヲ會員組織ニ改ムルノ考ヘナク之ヲ自然ノ趨向ニ委スルノ決心ナルヤ等ニ付三回ノ質疑ヲ爲シ矢口長右衛門ハ本案第十八條改正規定ノ施行期日ニ關シ質疑ヲ爲シ農商務大臣男爵山本達雄即チ各質疑ニ答辯ス次テ議院ハ淺田德則ノ動議ニ依リ貴族院規則第五十二條但書ニ依リ特別委員ノ數ヲ十五名ト爲スコトヲ議決ス議長乃チ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ如ク指

本達雄連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ二月七日本院ニ送付セリ

大正十一年二月十日日本案ノ第一讀會ヲ開ク農商務大臣男爵山本達雄本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 子爵 片桐 貞 央 | 子爵 米津 政 賢 | 男爵 平野 長 祥 |
| 男爵 眞田 幸 世 | 男爵 永山 武 敏 | 男爵 岩 倉 道 俱 |
| 三 宅 秀 | 川 上 親 晴 | 三 田 義 正 |

本委員會ハ二月十三日子爵片桐貞央ヲ委員長ニ三宅秀ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト三回ニシテ審査ヲ了リ同月二十五日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

二月二十八日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員副委員長三宅秀委員長ニ代リテ本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依

リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第十四號ニ在リ

二月二十八日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

家畜傳染病豫防法ハ大正十一年四月十日法律第二十九號ヲ以テ公布セラレタリ

○六 鐵道敷設法案

大正十一年一月十九日内閣總理大臣子爵高橋是清鐵道大臣元田肇連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ二月七日本院ニ送付セリ

大正十一年二月十日日本案ノ第一讀會ヲ開ク鐵道大臣元田肇本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス男爵池田長康ハ本案ノ如キ鐵道計畫ハ果シテ法律ヲ以テ之ヲ立テ得ルモノナリヤ否ヤ即チ當局者ハ大權專行事項以外ハ何事ト雖法律ニ依リ之ヲ爲シ得ルトノ解釋ヲ執レリヤ本件ハ之ヲ法律案トシテ提出セラレタルモ本員ノ

考フル所ヲ以テスレハ憲法第五條及第三十七條ノ立法事項タルノ性質ヲ有セ
ス純然タル行政事項ナリ要スルニ本案ノ鐵道計畫ハ即チ是レ鐵道大臣トシテ
ノ施政ノ方針ニ外ナラサルカ如シ政府力之ヲ法律案トシテ提出シタル憲法上
ノ根據ハ何レニ在ルヤニ付三回、西久保弘道ハ本案別表百四十九線ニ對スル調
査ハ確實ナルモノナリヤ又其ノ敷設ノ順序如何又鐵道大臣ハ前回議會ニ於テ
別表ノ線路ハ三十年來ノ調査ニ係レルモノナルコトヲ言明セラレシカ過日ノ
衆議院本會議ニ於テ之ヲ二十年來ノ調査云々ニ改メラレタリ果シテ何レカ事
實ナリヤ又豫定線路ヲ何故ニ斯ク急遽ニ決定セサルヲ得サルヤ即チ今ヨリ五
年乃至十年ヲ經サレハ甲線ハ官設、乙線ハ私設、丙線ハ本線、丁線ハ支線等ノ區別
サヘ分明ナラサルヲ今ヨリ其ノ線路ヲ法律ニ明記シ置クノ必要何レニ在リヤ
又鐵道大臣ハ本案百四十九線ハ之ヲ八百幾線中ヨリ選擇セルモノナルコトヲ
說ケリ其ノ選ニ洩レタル線路ト本案ノ百四十九線トノ關係ヲ明瞭ナラシムヘ
キ調査書類アラハ之カ提示ヲ乞フ又百四十九線ヲ將來永遠ノ間財政ノ容ス範
圍ニ於テ建設スルモノトセハ其ノ完成ハ少クトモ十年以上ヲ要スヘシ斯ル空

漠ナル計畫ヲ今日ニ於テ決定シ置カサルヘカラサルノ理由何レニ存スルヤ等
ニ付四回ノ質疑ヲ爲シ鐵道大臣元田肇、政府委員鐵道次官石丸重美、交之ニ答辯
シ議長ハ此ニ休憩ヲ宣告ス

午後會議ヲ繼續ス阪本鈺之助ハ現行鐵道敷設法ニ據レハ其ノ豫定線路ヲ變更
スル場合即チ第一期線ヲ第二期線ニ入レ又第二期線ヲ第一期線ニ繰上クル場
合ノ如キハ第二條末項及第七條等ノ規定ニ依リ一々帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ
必要トセリ然ルニ本改正案ハ其ノ第一條ニ於テ政府ハ必要ナル線路ヲ調査敷
設スルノ經費ヲ豫算ヲ以テ定メ繼續費トシテ議會ノ協賛ヲ求ムヘキコトヲ概
括的ニ規定セルヲ以テ該規定ノ精神ヨリ考フレハ豫定線路敷設ノ場合ハ敢テ
之ヲ法律ニ明示スルコトヲ爲サス寧ロ事實即チ其ノ各場合ニ臨ミ繼續費トシ
テ協賛ヲ求メテ可ナラスヤ又本案第三條ニ依レハ豫定線路ノ變更又ハ豫定線
路中新ニ工事ニ着手スルモノヲ定メタル場合ハ單ニ鐵道會議ニ諮詢スルノミ
ヲ以テ之ヲ決行シ得ルモノト解セラル果シテ然ルヤ否ヤニ付二回ノ質疑ヲ爲
シ江木千之ハ本案豫定線路中山口縣下ニ於ケル四線路敷設ニ關シ生シタル事

實ヲ舉ケテ之ヲ黨勢擴張ノ具ニ供スルノ不可ナル所以ヲ述ヘ且河川法ニ依ル河川改修ニ則リ豫定線路ノ敷設ヲ行フヲ得サルヤ否ヤヲ質ス男爵辻太郎ハ政府ノ調査ニ係ル線路經濟表ニ依リテ鐵道ノ運搬能力及其ノ收支ノ計算ヲ舉ケ內務大臣ニ對シ內務當局ハ此ノ鐵道敷設ノ計畫ニ鑒ミ道路ニ關シ同様ノ計畫ヲ立テ國費ヲ以テ地方道路ノ改修ヲ行ヒ自動車運轉ヲ以テ運輸ノ圓滑ヲ圖ルノ考ナキカニ付五回湯淺倉平ハ當局ハ本案ノ制定ニ依リ從來鐵道敷設計畫ニ伴ヒ生シタル幾多ノ惡弊ヲ助長スルノ傾向ヲ來スモノト認メ居ラサルヤ又現ニ既定十年計畫ノ遂行ニ於テ鐵道會計ノ上ニ十億圓ノ不足ヲ生スルト聞ク當局ハ之カ不足補給ニ付如何ノ考ヲ有スルヤ又本案新線路ノ建設費ハ到底鐵道會計ノ財源ノミヲ以テ之ニ應スル能ハサルヤ明カナリ鐵道大臣ハ衆議院委員會ニ於テ軍備縮小ノ結果ヨリ生スル餘裕ヲ以テ之カ補給ニ充ツルヲ得ヘキ旨ヲ說ケリ大臣ハ果シテ確信ヲ以テ之ヲ言明セラレタルヤ又第四十三回議會ニ於テ鐵道新線五線輕便線二十一線ヲ議決スルニ際シ豫算委員第六分科會ニ於テ政府ハ宜ク輕便線ノ法律上ノ性質ヲ明示スヘキ旨ノ希望決議ヲ爲シ豫算總

會及本會議ハ之ヲ是認セリ爾來該輕便線ハ未着手ノママニ經過シ而シテ本案別表中ニモ掲載セラレス此等輕便線ノ將來ニ於ケル變更ハ本案別表中ニ掲載シアラサルノ故ヲ以テ遂ニ議會ノ議決ヲ經ルヲ要セサルノ結果ヲ來ササルカニ付二回ノ質疑ヲ爲シ鐵道大臣元田肇、內務大臣床次竹二郎、政府委員石丸重美交、各質疑ニ答辯ス議長ハ此ニ延會ヲ宣告ス

二月十三日會議ヲ繼續ス湯淺倉平ハ第一、第四十二回議會ヨリ懸案ト爲リ第四十三回議會ニ於テ解決セル鐵道本線五線輕便線二十一線ノ問題ニ關スル會議ニ方リ本員カ有シタル疑團ニ對シ當局ハ眞ヲ以テ答フルコトヲ爲サス結局本員ヲシテ當局ハ議會ヲ欺キタルナキヤノ感ヲ有セシメタルモノアリ今本案ニ付當局ヨリ配付セラレタル鐵道線路網圖面ヲ披見スルニ山陰本線ノ中央ナル倉吉町附近ニ於テ極テ短距離ノ三角形ヲ成セル線路アリ其ノ一片ナル五哩ノ線ニ付テハ第四十二回議會ノ鐵道敷設法中改正法律案特別委員會ニ於テ委員ト政府委員トノ間ニ數回ノ質疑應答ヲ重ネタルカ當時政府委員ハ頗ル之カ答辯ニ苦ミタルモノノ如シ第四十三回議會ニ於テモ該倉吉町ヨリ山陰本線ニ達

スル線ニ付キ實例ヲ舉ケテ鐵道敷設ヲ政争ノ具ニ供スルノ弊ヲ論シタリ政府ハ今回法律ヲ以テ漫ニ空漠タル百四十九線ヲ畫シタルカ政府ハ之ヲ以テ能ク政争ノ弊ヲ撓ムルヲ得ルト信スルヤ幸ニ之カ明快ナル答辯ヲ乞フ第二、本案ノ如キ鐵道計畫ノ遂行ハ其ノ營業費用ト收入運賃ノ差引ノ上ニ於テ鐵道會計ノ基礎ヲシテ危殆ニ陥ラシムルモノニ非サルヤ第三、軍備縮小ヨリ生スル費用ヲ鐵道敷設ニ充用スルコトニ關スル鐵道大臣ノ説明ニ對シテ其ノ所見ヲ述フ第四、第四十三回議會豫算第六分科會ニ於ケル豫算ニ對スル委員ノ希望條件ニ就テハ政府ハ其ノ一半ハ確ニ之ヲ採用セラレシカ他ノ一半即チ輕便線二十一線ニ付テハ何等答フル所ナシ果シテ該二十一線ハ本案別表中ニ包含セシメ在ルヤ否ヤニ付テ二回、男爵福原俊丸ハ本案ニ於テ定メラレタル百四十九線ハ將來決シテ増減變更セラルルコトナキノ見込ナルカ又本案ノ線路ハ前議會ニ提出セラレシ線路ト一モ異ナルナキカ如シ前議會ニ於テ本員等ハ精細ナル質疑應答ヲ盡シタレハ當局モ亦相當ニ氣付キタル所アラム然ルニ夫等ノ結果ハ一モ本案ノ上ニ表ハレ居ラス其ノ理由如何ヲ質ス鐵道大臣元田肇即チ各質疑ニ答辯

ス次テ男爵福原俊丸ハ前議會ニ於ケル委員會ノ經過ニ對スル鐵道大臣ノ辯明ハ事實ト多少ノ相違ヲ認ムル旨ヲ述ヘテ其ノ注意ヲ促シ議長ハ此ニ休憩ヲ宣告ス

午後會議ヲ繼續ス上山滿之進ハ政府ハ鐵道線路ヲ黨勢擴張ニ利用シタル事實ヲ認ムルヤ否ヤ果シテ鐵道省官吏中個人トシテ政黨ト相呼應シテ黨勢擴張ニ力ヲ籍シタル者ナキコトヲ斷言セララルヤ否ヤ又前議會閉會後鐵道敷設法案ニ關スル小冊子ヲ各議員ニ配付シタル者アリ該冊子ハ已ニ鐵道大臣ノ繙讀セル所ナラム若之ニ關シ知得スル所アラハ此ニ之ヲ辯明セムコトヲ乞フ等四回ノ質疑ヲ爲シ中村是公ハ第一、鐵道大臣ハ前議會ノ本院委員會ハ法律ヲ以テ鐵道網ヲ規定スルニ異議ナカリシカ如ク述ヘラレシモ是レ或ハ誤リニハ非サルカ若誤ナラハ大臣ハ此ニ之ヲ訂正セムコトヲ希望スル旨ヲ述フ第二、前日辻男爵ノ引用セル經濟調査表ニ表ハレタル鐵道建設費ノ哩當リハ十五萬九千圓ナリト聞ケリ石丸鐵道次官ハ一哩三萬五千圓ヲ以テ建設セラレタルモノアリト說ケルモ是レ恐クハ特別ノ事情アルモノニシテ之ヲ一般的平均數中ニ加ヘテ

計算スルカ如キハ頗ル誠意ヲ缺ケル答辯ニハ非サルカ若真ニ三萬五千圓ヲ以テ建設セラレタルモノアリトセハ此ニ其ノ線路名、建設日時及哩數ノ明示ヲ乞フ又法律ヲ以テ鐵道網ヲ規定スルコトハ何ノ利益アリテ存スルヤ又如何ナル効果ヲ將來ノ鐵道政策ニ及ホスモノナリヤ第三、本案ハ兎ニ角再調査ノ必要アリ政府ハ一旦之ヲ撤回シテ十分ノ調査ヲ加フルノ意ナキヤ等ニ付三回ノ質疑ヲ爲シ男爵辻太郎ハ前刻元田鐵道大臣ノ中村是公君ニ對シテ爲シタル答辯中本員カ前議會ニ於テ鐵道敷設法ニ賛成セルカ如ク説カレタルハ全ク誤解ナルコトヲ述ヘテ其ノ取消ヲ求メ鐵道大臣元田肇、政府委員石丸重美交、各質疑ニ答辯ス議長ハ此ニ延會ヲ宣告ス

二月十四日會議ヲ繼續ス男爵日賀田種太郎ハ鐵道國有ノ目的ハ鐵道統一ニ在ルカ將タ軍事的ニ在ルカ其ノ目的及理由如何又鐵道國有ノ初ニ於テ政府ハ其ノ幹線ヲ廣軌ト爲スノ聲明ヲ爲セシカ此ノ廣軌問題ハ現在ニ於テ如何ナリ行ケルヤヲ質シ、男爵斯波忠三郎ハ本案鐵道計畫ハ一般交通機關ト步調ヲ保テツツ實行スルノ考ナリヤ將タ全ク彼トハ沒交渉ナリヤ若幸ニ步調ヲ保テツツ計

畫セムトナラハ其ノ計畫ノ程度ヲ知得シタシ又政府カ此ノ大々的鐵道網擴張ヲ以テ國家ノ大計ト稱スル以上ハ必スヤ其ノ機能ヲシテ十分ニ發揮セシメラルルコトナルヘシ即チ之カ對應策トシテ幹線ノ改良、擴張又ハ複線若ハ複々線ノ架設等ニ付如何ニ考慮シ居ラルルヤ又本案ノ線路網圖ヲ見ルニ前議會ニ於テ委員ノ一人ヨリ提供シ當局ニ於テ即坐ニ否認セラレタル四線路カ此ニ赤線トナリテ表ハレ居レリ其ノ他前年ノ計畫中ニ在リテ今回ノ計畫中ニ表ハレ居ラサルモノアリ此ニ於テ此ノ鐵道計畫ナルモノハ實ニ伸縮自在ト稱スヘキモノナラサルヤノ疑ナキ能ハス是レ果シテ當局カ心血ヲ濺キテ爲シタル調査ノ結果ニ依レルモノナリヤ之ニ對シ明確ナル説明ヲ乞フ又政府ノ配付セル線路調査書類ニ依レハ政府ハ明治二十五年ヨリ最近ニ至ルマテニ調査シタル線路八百二十線、延長一萬九千五百哩中ヨリ今回ノ百四十九線、延長六千三百哩ヲ選擇シ此ノ線路ニ基キ帝國ノ地勢、交通ノ經路ニ鑑ミ一方ニ地方産業ノ開發、國防上ノ要求等ヲ覈査セル旨ヲ説ケルカ政府カ此ノ大計畫ヲ立テタル標準ハ抑何ニ基キタルヤ政府ハ地方産業ノ開發若ハ軍事的見地ヨリ鐵道ノ必要ヲ説クモ

果シテ鐵道ノミニ依リテ其ノ目的ヲ完成シ得ヘキヤ思フニ運輸交通ノ圓滑ヲ計ルハ道路ノ築造改修及自動車ノ運轉ヲ以テ鐵道ヲ補フヲ最良手段トセサルヤ政府カ此ノ事ニ關シ何等考慮ヲ費ササルハ如何又政府ハ内地ノ産業文化ノ開發ヲ以テ鐵道普及ノ理由ト爲スモ一方新領土ニ向テ何等ノ施設計畫ヲ爲ササルハ頗ル遺憾ナリ政府ノ考カ斯克内地ト新領土トノ間ニ懸隔アルハ如何ノ理由ニ依ルカ又前回議會ノ豫算委員會ニ於テ鐵道計畫ニ關シ一ノ希望ヲ決議シ續テ本會議ヲ通過セルカ之ヲ今回ノ提案ニ見ルニ政府ハ寧ロ該希望決議ニ反スルノ考ヲ有セラルルカ如シ政府ハ爾來該決議ニ對シ如何ノ措置ヲ爲セリヤ之ニ對スル所考ヲ聽キタシ等二回ノ質疑ヲ爲シ江木翼ハ本案ハ前回ニ於テ豫算ヲ伴フコトナクシテ提出セラレタル鐵道敷設法案ト同一物ナリ前回ハ遂ニ未決ニ了リシカ爾後ノ一ケ年間ニ於テ鐵道當局ハ如何ナル不自由差支ヲ感セラレシヤ今回モ亦之ト同ク豫算ヲ伴フナクシテ本案ヲ提出セラレシカ假ニ本年亦未決ニ了ルモノトセハ當局ハ如何ナル不自由差支ヲ生スルモノトセラ

一交各質疑ニ答辯ス議長ハ此ニ休憩ヲ宣告ス

午後會議ヲ繼續ス江木翼ハ午前ニ於テ馬場政府委員ノ爲シタル本案第一條ニ依リ政府ノ負フ所ノ義務即チ別表ノ線路ヨリ之ヲ豫算面ニ計上スル義務カ所謂法律上ノ効果ナリトノ答辯ハ國務大臣ノ是認スル所ナリヤヲ質スコト二回鐵道大臣元田肇即チ之ニ答辯ス江木翼ハ更ニ本案第一條ニ依リ別表線路中ヨリ引拔キテ豫算ニ計上シタル費目ハ即チ政府ノ法律上ノ義務ニ屬スル歳出ナリトノ結論ニ到達スヘシ果シテ然ラハ該歳出ハ憲法第六十七條ノ政府ノ義務ニ屬スル歳出ナルハ爭フヘカラサル所ナリ然ルニ之ヲ當局大臣カ數日來此ノ議場ニ於テ説明答辯スル所ニ對照スルニ其ノ趣旨互ニ相反スルモノノ如シ國務大臣ハ馬場政府委員ノ述フル所ヲ是認セララルヤ否ヤニ付三回男爵池田長康ハ前日爲シタル質疑ニ對スル馬場政府委員ノ答辯ハ過日衆議院委員會ニ於テ同委員ノ述ヘタル所ト相違アルカ如シ馬場政府委員ハ本議場ニ於テ前日ノ言ヲ訂正シタルモノナリヤ鐵道大臣亦現在ノ政府委員ノ答辯ヲ是認スルヤ否ヤニ付二回男爵辻太郎ハ第四十三回議會ニ於テ既成鐵道ヲ廣軌ニ改築スル

ニ付經費幾何ヲ要スルヤノ質疑ヲ爲セシカ此ニ其ノ答辯ヲ求ムル旨ヲ述ヘ又現在ノ既成線改良費ハ當局大臣ニ於テ満足スル所ナリヤ否ヤ其ノ實例ヲ舉ケテ之ヲ質シ又鐵道網圖面中赤線ニ平行シテ青線ヲ引キタルモノ即チ官線ニ沿ウテ私設線ヲ示シタルモノアリ此ノ中ニハ既設線アリ又未設線アリ此ノ青線即チ私設線ニ對シテハ政府ハ將來之カ敷設ヲ免許シ若ハ之ヲ買收スルノ意圖ナリヤ若之ヲ買收スルモノトセハ其ノ費額幾何ニ達スルノ見込ナリヤニ付二回、男爵山根武亮ハ明治二十五年鐵道敷設法ヲ制定セラレシ以來政府ハ之ニ依リテ着々建設シ來リ餘ス所僅ニ二線ト爲レルカ如シ明治四十三年ニ至リ政府ハ別ニ輕便鐵道法ヲ制定シ豫算ノ一目トシテ其ノ經費ヲ要求シ任意ニ其ノ線路ヲ建設シ得ルノ便法ニ從フコトトナレリ然ルニ政府ハ種々ナル議論ニ鑒ミテ其ノ妥當ナラサルコトヲ覺知シ終ニ本案ニ依リ總テ該私設線路ヲモ法律ヲ以テ規定スルニ至リシヤニ付一回、男爵阪谷芳郎ハ本案ハ議會開設以來ノ大問題ニシテ國民ハ之ニ對シ十分ナル議論ヲ費ヤシ又十分ナル研究ヲ費ヤシツツアリ政府ハ兩院ノ議論ノ如何ニ拘ラス是非トモ本會期ニ於テ之ヲ決定セシメ

ムトノ希望ナルカ將タ國民ノ意思ノ存スル所ヲ汲ミ大ニ胸襟ヲ披キテ十分ノ熟議ヲ遂クルノ餘地ヲ與ヘムトノ意圖ナルカニ付、若槻禮次郎ハ第一、當局者ハ鐵道建設ト現時ノ財政經濟ノ狀況トノ調和ヲ省ミルコトナク漫ニ明治二十五年ノ古キ以前ヨリ調査シ置キタル線路ヲ其ノママ本案ニ掲ケ出シ以テ交通機關ノ整備ヲ企畫セムトシ而モ此ノ案ニシテ若成立セスムハ鐵道計畫ハ全然成立セサル旨ヲ主張セラルルカ其ノ理由果シテ何レニ存スルヤ第二、本案ヲ提出シ之ニ依リテ計畫ヲ立ツルニ付テハ其ノ着手ノ時期、順序、材料、方法等ニ付政府ハ相當ノ腹案ヲ有セラルルニ相違ナシ幸ニ之カ說示ヲ乞フ第三、本案ノ線路ハ明治二十五年ノ鐵道敷設法ヲ以テ計畫セラレタル幹線以外ニ屬スルモノニシテ其ノ收益ノ如キモ比較的薄少ナル線路多キニ居ルヲ以テ建設費用ノ如キ概ネ公債發行ニ待タサルヘカラス從テ之カ建設費ニ充ツヘキ公債額ハ必スヤ多額ニ上ホルヲ免レサルヘシ其ノ發行高ノ見込如何第四、鐵道國有主義ハ往々其ノ幹線ノ建設ニ專ラナルヨリ遂ニ之カ改良ヲ怠ルニ至ルコト自然ノ趨勢ナルカ如シ我鐵道亦既ニ此ノ弊ニ陷レルナキカ又國有鐵道建設者カ鐵道省即チ政

府ナルヨリ一私人ハ單ニ自己ノ地方又ハ私人ノ利益ヨリ政府ニ向ヒ支線ノ建設ヲ強要シ之ニ依リ諸多ノ弊害ヲ生シツツアルコトハ現ニ事實ノ明示スル所ナリ政府ハ斯ル弊害ヲ認メナカラ地方支線ノ建設ヲ私設會社ニ許可セサルノ主義ヲ執レルカ如シ本案鐵道網中ニハ曾テ私設鐵道トシテ熱心ニ其ノ經營ヲ出願セル線路數多ヲ含メリ鐵道省ハ何故ニ此レ等支線ヲ私設會社ニ許可セサルヤ等ニ付四回ノ質疑ヲ爲シ湯淺倉平ハ當局ハ第四十二回議會ニ於テ我貴族院ヲ欺キテ豫算ノ議定ヲ求メ而シテ之カ執行ニ際シテハ當時議定ヲ求メタル條件ヲ無視シ居ラルルヤノ疑アリ昨日ノ會議ニ於テ之ヲ鐵道大臣ニ質セシニ大臣ハ一應取調ノ要アル旨ヲ以テ其ノ答辯ヲ保留セラレタリ願クハ本日之カ明快ナル説明ヲ得タシト述ヘ更ニ三回ノ發言ヲ爲シ江木千之ハ第一本案ニシテ成立セハ政黨派ノ關係即チ內閣交迭ノ度毎ニ地方ノ利益ニ影響ヲ與ヘ延イテ地方ノ秩序ヲ紊亂スルニ至ラサルナキヤ之ニ對スル明瞭ナル解答ヲ求ム第二鐵道大臣ハ本鐵道網ニ依リ鐵道建設ノ大方針定マリ從テ地方產業ノ發達ヲ來ス旨ヲ縷說セラルルモ元來鐵道網ハ只是レ線路圖面ニ過キスシテ線路實

際ノ建設ハ幾十年ヲ經テ完成スルモノナルヤ明カナラス地方產業ノ發達モ亦其ノ建設ノ完成ニ俟タサルヘカラス然ルニ地方人民カ漫ニ其ノ完成ニ依頼スルノ結果建設ノ遲延ハ却テ產業ノ發達ヲ阻碍スルニ至ルノ虞ナキカ等ニ付三回ノ質疑ヲ爲シ鐵道大臣元田肇、政府委員馬場鏐一、同石丸重美交、各質疑ニ答辯ス次テ議院ハ子爵八條隆正ノ動議ニ依リ貴族院規則第五十二條但書ニ依リ特別委員ノ數ヲ十五名ト爲スコトヲ議決ス議長乃チ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ如ク指名ス

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 伯爵 林 博太郎 | 子爵 酒井 忠 亮 | 子爵 大河内 正敏 |
| 子爵 野村 益 三 | 子爵 蒔田 廣 城 | 男爵 山 根 武 亮 |
| 和田彦次郎 | 男爵 古市 公 威 | 内 田 嘉 吉 |
| 男爵 阪谷 芳 郎 | 中村 是 公 | 男爵 斯波忠三郎 |
| 男爵 黑田 長 和 | 男爵 藤堂 高 成 | 山之内 一 次 |
- 三月十一日男爵黑田長和特別委員ヲ辭任セルニ依リ同日議長ハ其ノ補闕トシテ左ノ如ク指名セリ

男爵 岩倉道俱

本委員會ハ二月十六日伯爵林博太郎ヲ委員長ニ、子爵大河内正敏ヲ副委員長ニ
舉ケ會議ヲ開クコト二十一回ニシテ審査ヲ了リ三月二十日委員長ハ修正案ヲ
具ヘテ議長ニ報告セリ

三月二十二日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵林博太郎本案ノ委員會
審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ併テ修正ノ理由ヲ説明ス男爵小畑大太郎ハ
委員長ニ對シ第一、鐵道線路網中赤線即チ官線カ青線即チ私設線ノ上ニ上ホレ
ルモノアリ又青線ニシテ途切レ居ルモノアリテ僅ニ數哩ニシテ赤線ニ達スル
モノヲ此ニ打チ切り居ル理由ニ付キ委員會ノ審査セル所如何第二、日本海ニ面
セル信越線即チ直江津ヨリ長岡ニ至ル線路中來迎寺ヨリ八哩ノ私設線魚沼鐵
道アリ該線ハ信濃川ノ西岸ニ沿ヘリ而シテ此ノ所ニハ同信越線宮内ヨリ信濃
川ノ東岸越後川口ヲ經テ前橋ニ至ル國有線アリ然ルニ前述ノ信濃川ノ西岸ナ
ル青線ノ上ニ赤線十五哩ヲ畫セリ僅々數哩ノ間信濃川ヲ東西ニ挾ミテ地方線
ヲ架スルハ何ノ必要ニ出テタルヤ委員會ノ之ヲ認メタル理由如何等ニ付五回

ノ質疑ヲ爲シ委員長伯爵林博太郎、副委員長子爵大河内正敏交、之ニ答辯ス江木
翼ハ委員會ノ修正ニ係ル第一條條文ノ意義ニ付數回ノ質疑ヲ爲シ委員長伯爵
林博太郎即チ之ニ答辯ス次テ討論ニ移リ平井晴二郎ハ本案反對ノ意見ヲ、子爵
大河内正敏ハ本案賛成ノ意見ヲ述フ議長ハ此ニ休憩ヲ宣告ス

午後會議ヲ繼續ス中村是公ハ本案反對ノ意見ヲ、和田彦次郎ハ本案賛成ノ意見
ヲ述ヘ動議ニ依リ討論ヲ終局シテ本案ノ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開
クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ本案ノ第
二讀會ヲ開ク江木翼ハ修正案第一條ノ意義ニ付鐵道大臣ノ意見ヲ問ヒ又前刻
委員長ノ爲シタル第一條ノ修正ニ關スル答辯ニ付更ニ數回ノ質疑ヲ爲シ鐵道
大臣元田肇、委員長伯爵林博太郎交、之ニ答辯ス議長ハ本案全部ヲ議題ト爲シ次
テ採決ヲ行ヒ多數ヲ以テ委員會ノ修正ヲ可決シ此ニ第二讀會ヲ了リ貴族院規
則第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第三讀會ヲ開キ異議ナク第二讀
會ノ議決案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第十四號及第二十九號ニ在リ
三月二十二日本案ヲ衆議院ニ回付シ同日同院ヨリ本院ノ修正ニ同意シテ本案

ヲ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

附記

鐵道敷設法ハ大正十一年四月十一日法律第三十七號ヲ以テ公布セラレタ

○七 酒造税法中改正法律案

○八 織物消費税法中改正法律案

大正十一年一月十八日兩案各、内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清
署名衆議院ニ提出シ同院ニ於テ兩案ヲ可決シ二月十六日本院ニ送付
セリ

大正十一年二月二十一日兩案ノ各第一讀會ヲ開ク大藏大臣子爵高橋是清兩案
提出ノ趣旨ヲ辯明ス若槻禮次郎ハ酒造税法中改正法律案ハ其ノ施行期日ヲ四
月一日ト爲セルカ現ニ製造中ニ係ルモノモ右期日以後ハ其ノ適用ヲ受クルモ
ノナルカ又本案ニ依リ減稅セララル金額ハ豫算中ニ見積リアルヤ否ヤ又織物
消費税法中改正法律案ニ付説明セラレタル如キ意義ヲ同法文中ニ明記スルヲ

相當ト思考スルカ特ニ之ヲ勅令ニ讓ラレタル理由如何等ニ付質疑ヲ爲シ政府
委員大藏省主稅局長松本重威之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之
ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ兩案ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

侯爵 細川 護立 子爵 西尾 忠方 荒井賢太郎

男爵 小畑 大太郎 男爵 東 郷 安 和田 豊治

八木 久兵衛 石橋 謹二 西川 甚五郎

本委員會ハ二月二十五日侯爵細川護立ヲ委員長ニ、子爵西尾忠方ヲ副委員長ニ
舉ケ會議ヲ開クコト各、二回ニシテ審査ヲ了リ三月二日委員長ハ兩案ヲ可決セ
ル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月六日兩案各第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員副委員長子爵西尾忠方委員長ニ
代リテ兩案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ各大體議ヲ了リ兩
案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但
書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク兩案ヲ可決セリ
兩案ハ載テ速記録第二十號ニ在リ

三月六日兩案ノ裁可ヲ奏請シ又兩案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
附記

酒造税法中改正法律ハ大正十一年三月二十八日法律第十六號ヲ以テ、織物
消費税法中改正法律ハ同日法律第十七號ヲ以テ孰モ公布セラレタリ

○九 國有財産整理資金特別會計法案

大正十一年一月二十五日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名
衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ二月六日本院ニ送付セリ
大正十一年二月二十一日日本案ノ第一讀會ヲ開ク大藏大臣子爵高橋是清本案提
出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議
決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- | | | |
|-----------|---------|----------|
| 伯爵 柳澤保惠 | 子爵 八條隆正 | 大山綱昌 |
| 男爵 目賀田種太郎 | 男爵 郷誠之助 | 男爵 池田長康 |
| 仁尾惟茂 | 星島謹一郎 | 二階堂三郎左衛門 |
- 本委員會ハ三月三日伯爵柳澤保惠ヲ委員長ニ、男爵目賀田種太郎ヲ副委員ニ舉

ケ會議ヲ開クコト三回ニシテ審査ヲ了リ同月二十日委員長ハ本案ヲ可決セル
旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十二日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵柳澤保惠本案ノ委員會
審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開ク
コトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ
以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第
二十號ニ在リ

附記

三月二十二日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
國有財産整理資金特別會計法ハ大正十一年三月二十八日法律第六號ヲ以
テ公布セラレタリ

○十 六大都市行政監督ニ關スル法律案

大正十一年一月二十八日内閣總理大臣子爵高橋是清、内務大臣床次竹
二郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ二月十八日本院ニ

送付セリ

大正十一年二月二十一日本案ノ第一讀會ヲ開ク内務大臣床次竹二郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス阪本鈺之助ハ大都市行政ノ發達セル今日ニ於テハ市ノ行政ハ府知事又ハ市長ノ一方ニ統一セシムヘキモノトス然ルニ政府ハ依然市民ノ上ニ府知事ト市部府會トヲ置キ市民ヲシテ府税市税及區費三重ノ負擔ヲ爲サシム市民ノ其ノ不便ヲ感スルヤ大ナリ政府當局ハ之ニ對シ如何ノ意見ヲ有スルヤヲ質シ内務大臣床次竹二郎之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

伯爵 清棲家教

子爵 吉田清風

小牧昌業

男爵 阪谷芳郎

男爵 南岩倉具威

笠井信一

小山健三

永田秀次郎

大谷嘉兵衛

本委員會ハ二月二十五日伯爵清棲家教ヲ委員長ニ男爵阪谷芳郎ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ三月二日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月六日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵清棲家教本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十號ニ在リ

三月六日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

六大都市行政監督ニ關スル法律ハ大正十一年三月二十二日法律第一號ヲ以テ公布セラレタリ

○十一 少年法案

○十二 矯正院法案

大正十一年二月十日兩案各、内閣總理大臣子爵高橋是清、内務大臣床次竹二郎、文部大臣中橋德五郎、司法大臣伯爵大木遠吉連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ兩案ヲ可決シ同月十八日本院ニ送付セリ

大正十一年二月二十一日兩案ノ各第一讀會ヲ開ク政府委員司法次官山内確三郎兩案提出ノ趣旨ヲ辯明ス山脇玄ハ第一、少年法ノ如キハ現在社會ノ風紀匡正ニ付テノ根本的對策ニ非シテ一時的ノ姑息策ニ過キサルヤノ疑ナキ能ハス本員ハ寧ロ根本的ニ社會ノ惡事情ヲ驅逐スルノ策ヲ講スルコソ却テ首相ノ述ヘラレタル施政方針ニ適應スルモノニ非サルカト信ス如何第二、政府ハ現ニ教育調査會ヲシテ家族制度ノ維持ニ全力ヲ盡スヘキノ議決ヲ爲サシメ又法律審査會ヲシテ民法ニ家族主義ヲ注入セシメツツアリト聞ク少年法ノ如キハ家内ノ出來事ヲ公然摘發スルノ結果ヲ來スモノナルヲ以テ全ク前述ノ主義ト相矛盾スルモノト思惟ス如何第三、外國ノ制度ヲ採用スル場合ニハ大ニ自國ノ習慣ヲ參酌セサルヘカラス我カ國ノ如キ宗教心ニ乏シキ國ニ在リテハ適當ナル審判官、保護司ヲ得ル蓋シ頗ル困難事ナラム縱シ多少之ヲ得ルアリトスルモ此ノ法律ヲ運用スルニ足ルノ人員ヲ得ルコト到底望ムヘカラス如何第四、少年ノ感化ニ付テハ感化院ノ設アリ今ヤ之ヲ外ニシテ矯正院ヲ設クルノ必要那邊ニ存スルヤ現行ノ感化院ニハ收容年限ニ程度アリ而モ教育ノ方法ナク又實業練習

ノ設備ナシト云ハムモ政府ハ自ラ進ムテ其レ等ノ設備ヲ爲サハ可ナラスヤ等二回ノ質疑ヲ爲シ政府委員山内確三郎即チ之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ兩案ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

侯爵 花山院親家 子爵 勘解由小路資承 富谷銚太郎

荒川義太郎 男爵 若王子文健 男爵 千秋季隆

田所美治 湯淺倉平 江原素六

本委員會ハ二月二十五日侯爵花山院親家ヲ委員長ニ、田所美治ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト各、六回ニシテ審査ヲ了リ三月二十日副委員長ハ兩案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十二日兩案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員副委員長田所美治委員長ニ代リテ兩案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス山脇玄ハ少年法案反對ノ意見ヲ述ヘ此ニ兩案ノ大體議ヲ了リ先ツ少年法案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續

テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決シ次テ矯正院法案ニ移リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ兩案ハ載セテ速記録第二十號ニ在リ

三月二十二日兩案ノ裁可ヲ奏請シ又兩案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

少年法ハ大正十一年四月十七日法律第四十二號ヲ以テ、矯正院法ハ同日法律第四十三號ヲ以テ孰モ公布セラレタリ

○十三 過激社會運動取締法案

大正十一年二月十八日內閣總理大臣子爵高橋是清、內務大臣床次竹

二郎、司法大臣伯爵大木遠吉連署提出

大正十一年二月二十一日日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員司法次官山內確三郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス阪本鈺之助ハ第一、本案ノ題號タル「過激社會運動」ナル字義如何第二、第一條ノ「其ノ他ニ關シ朝憲ヲ紊亂スル事項云云」ノ意義如何第三、

第三條ノ社會ノ組織ヲ暴動、暴行、脅迫其ノ他ノ不法手段ニ依リ變革スル事項ノ宣傳ヲ爲シ云々ノ規定ヲ見ルニ本條ハ第一條ノ無政府主義、共產主義ヲ宣傳スル者ト異ナリ尙ホ彼レニ比シ其ノ範圍一層ニ廣キモノノ如シ然ラハ其ノ刑ノ如キモ第一條ノ違反者ヨリモ更ニ重カルヘキ筈ナルニ明文ニ於テ却テ刑期ヲ短クセルハ立案者ニ於テ社會ノ根本組織ヲ變革スルコトハ寧ロ第一條ノ行爲ヨリ輕シト見タルニ在ルカヲ質シ尙ホ現下ノ問題タル赤化宣傳若ハ思想問題等ニ關スル取締若ハ教育方針ニ關スル內務、文部等當局大臣ノ意見ヲ質ス議長ハ此ニ休憩ヲ宣告ス
午後會議ヲ繼續ス政府委員山內確三郎午前ノ阪本鈺之助ノ質疑ニ對シ答辯ス阪本鈺之助ハ過激社會運動ナル字義及第三條ニ關スル政府委員ノ說明ニ付更ニ三回ノ質疑ヲ爲シ政府委員山內確三郎之ニ答辯ス次テ文部大臣中橋徳五郎ハ阪本鈺之助ノ質疑ニ係ル過激社會運動ト風俗取締及教育ノ方針等ノ關係ニ付二回ノ説明ヲ爲ス此ニ於テ內務大臣ノ出席ヲ待ツ爲議事日程第九、第十ノ議事ニ移ル

議長ハ内務大臣ノ出席アリタルヲ以テ議事ヲ繼續スル旨ヲ宣告ス阪本鈺之助ハ第一條ノ其ノ他ニ關シ朝憲ヲ紊亂スル事項云云ニ對スル内務大臣ノ解釋及執行ニ關スル意見ハ行爲ノ如何ナル程度マテヲ朝憲紊亂ト做スカ又本員ノ見解ヲ以テスレハ第三條ノ社會ノ根本組織ヲ變革スル事項中ニハ第一條ノ法意モ亦之ニ包含セララルモノト解セラルモ兎ニ角兩條ノ規定ニ重複ノ感アリ内務大臣ハ社會ノ根本組織ヲ變革シ了ルト云フコトハ之ヲ如何ニ解釋セララルヤ又警察上ノ職務執行ニ付如何ノ覺悟ヲ有スルヤ等ニ付三回、伯爵柳澤保惠ハ第一條ノ法文ニ於テ殊更ラニ無政府主義、共產主義ノ二ヲ明記シ其ノ他ニ存スル極端ナル主義ノ列記ヲ爲ササル理由及宣傳ナル文字ニ付四回、山脇玄ハ政府委員ニ對シ第一、第一條ノ朝憲紊亂トハ憲法及其ノ附屬法律ニ係ルモノヲ云ヒ其ノ他ノ法律ヲ紊亂スルコトハ之ニ包含セサルノ意ナルヤ又彼ノ普通選舉實施運動ノ如キハ朝憲紊亂ノ所爲トシテ第一條ニ依リ之ヲ取締ルノ趣意ナルヤ第二、近來行ハルル勞働運動即チ賃銀ノ公定、勞働時間ノ短縮等ノ運動又ハ或ル物ノ國有又ハ公有ノ主張ニ關スル運動等ハ第三條中ニ包含セララルヤ否ヤ第三、

第五條ニ於テ自首者ノ刑ヲ輕減スルハ可ナルモ之ヲ免除スルハ如何ナル趣意ニ出ツルヤヲ質シ更ニ内務大臣ニ對シ危險思想ノ撲滅ハ國民教育ノ普及ニ待ツニ非サレハ其ノ目的ヲ達スル能ハス法律ノ壓迫ハ却テ之ニ反動ヲ與フルコトハ露西亞、獨逸、英國等ノ實例ニ徴シテ明カナリ然ルモ尙ホ内務大臣カ法律ノ壓迫ヲ以テ之ヲ絶滅シ得ヘシト考ヘラルルノ理由如何ニ付二回、矢口長右衛門ハ本案題號ノ意味ニ付各、質疑ヲ爲ス内務大臣床次竹二郎、政府委員司法省刑事局長林賴三郎交、各質疑ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 公爵 二條 厚基 | 子爵 伊 東 祐 弘 | 大久保利武 |
| 大島 健一 | 河 村 善 益 | 岡 田 良 平 |
| 男爵 中 川 良 長 | 伊 澤 多 喜 男 | 竹 越 與 三 郎 |

本委員會ハ二月二十五日公爵二條厚基ヲ委員長ニ、大久保利武ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト五回ニシテ審査ヲ了リ三月十四日委員長ハ修正案ヲ具ヘテ議長ニ報告セリ

三月十八日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長公爵二條厚基本案ノ委員會審查ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ併セテ修正ノ理由ヲ説明ス男爵東郷安ハ特別委員長ニ對シ第一、委員會ハ前後五回ノ會議ヲ重ネ其ノ間三回十數時間ヲ通シ速記ヲ止メテ重要ナル協議ヲ盡サレタリト聞ク該協議事項ハ本修正案成立ニ重要ナル關係ヲ有スト傳聞スルヲ以テ幸ニ之カ報告ヲ得ムコトヲ望ム第二、三月十四日ノ特別委員會速記録ヲ見ルニ當日議場出席者ノ定足數ヲ缺ケル爲議長ヨリ再三特別委員會ヲ中止シテ議場ニ着席セムコトヲ希望セラレタルニ拘ラス終ニ議場ニ出席スルニ至ラサリシカ此ノ際一時速記ヲ中止セラレ極メテ重要ナル事項進捗セリト傳聞セリ若秘密會ニ非サレハ該進行ノ詳細ナル模様ヲ議場ニ報告セムコトヲ望ム旨ヲ述フ議長ハ此ニ休憩ヲ宣告ス

午後會議ヲ繼續ス特別委員長公爵二條厚基午前ノ東郷男爵ノ質疑ニ答辯ス男爵東郷安ハ更ニ午前ノ質疑ニ付再ヒ陳述スル所アリ男爵伊達宗曜ハ第一、第三條「社會ノ根本組織云云」ノ意義如何第二、第二條ニ「前條ノ事項ヲ實行宣傳云々」トアリテ其ノ刑ハ第一條ノ行爲ニ對スルモノヨリモ重キカ如シ是レ結社又ハ

多衆運動等ノ行爲カ社會ヲ害スルノ程度却テ重シトスルニ出ツルカ又第三條ニ付テハ第一條ニ對スル第二條ノ如キ規定ヲ設ケサレハ本員ノ頗ル疑訝ニ堪ヘサル所ナリ之カ説明ヲ乞フ旨ヲ述フ上山滿之進ハ第三條ノ其ノ他ノ不法手段中ニハ法規命令ニ違反セル事柄ハ總テ之ヲ含ムト解釋スルヲ當然ナリト思考ス例ヘハ出版法違反ニ依リ秘密出版ヲ以テ盛ニ宣傳ヲ行フ如キハ其ノ秘密出版自身カ不法手段ナリ此ノ手段ハ第三條ノ其ノ他ノ不法手段即チ修正ノ其ノ他之ニ類スル不法手段ニ該當スルモノト信ス然ルニ政府委員ハ之ヲ包含セサル旨ヲ說ケルカ其ノ理由如何又朝憲紊亂中ニ不法手段ナルモノヲ包含セリトノコトナルカ此ノ文字中ニ當然包含スル所ノ不法手段ナルモノハ如何ナルコトナルカニ付三回湯淺倉平ハ原案ハ過激ナル社會主義ノ宣傳ヲ防止スルノ趣旨ニ出ツルコトハ之ヲ領解セリ而シテ本員ノ如キハ原案自體カ甚タ峻酷ナル法律案ナリトノ感ヲ抱ク者ナリ今特別委員ノ修正ヲ見ルニ其ノ趣意ハ尙ホ以上ニ擴張セラレ適用ノ範圍モ亦一層擴充セラレタルカ如シ政府ノ之ニ對スル所考如何ニ付五回ノ質疑ヲ爲シ政府委員林賴三郎各質疑ニ答辯ス特別委員

大久保利武、同伊澤多喜男、男爵東郷安ノ委員會議ノ經過ニ關スル質疑ニ對シ
 委員會ノ經過ヲ述ヘテ委員長ノ答辯ヲ補足ス山脇玄ハ本案反對ノ意見ヲ述ヘ
 此ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決ス
 三月二十二日本案ノ第二讀會ヲ開ク子爵八條隆正ハ本案特別委員ノ數六名ヲ
 増加シテ之ヲ再審査ニ付スルコト及其ノ選定ハ之ヲ議長ニ委任スルノ動議ヲ
 提出シ議院之ヲ可決ス議長乃チ左ノ如ク指名ス

- 子爵 八條隆正
- 男爵 南岩倉具威
- 渡邊廉吉
- 男爵 內田正敏
- 木場貞長
- 川上親晴

本委員會ハ本案再審査ニ付會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ三月二十三
 日委員長ハ修正案ヲ具ヘテ議長ニ報告セリ
 三月二十四日本案第二讀會ノ續ヲ開ク特別委員長公爵二條厚基ハ本案再審査
 ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ併セテ修正ノ理由ヲ説明ス湯淺倉平ハ第一、政府
 ハ已ニ昨年五月頃ニ於テ現行法令ノ不備ヲ感シ國家自衛ノ必要上本案ノ如キ
 内容ヲ有スル緊急勅令ヲ發布セムトセリト聞ク然ルニ政府力爾來今日ニ至ル

マテ之ニ關スル相當ノ處置ヲ執ラサリシハ是レ其ノ間ニ生スル責任ヲ議會ニ
 轉嫁セムトスルノ考ニ出テシニ非サルカ又政府ハ第一修正案、第二修正案共ニ
 賛成ヲ表セリ政府ハ原案及兩修正案ノ三案中何レヲ是ナリトスルヤ第二、再修
 正案ニハ大ナル缺陷アリト認ム即チ該修正案ニ據レハ外國人又ハ外國ニ在ル
 日本人ト本國ニ在ル日本人ト相通謀シテ朝憲紊亂事項ヲ宣傳シタル場合ハ法
 律ニ觸ルルモ若日本人ニシテ本國ニ於テ相連絡シテ朝憲紊亂事項ヲ宣傳シタ
 ル場合ハ何等法律ニ觸レス從テ此ノ法律ニ依リテ取締ヲ爲ス能ハサルノ結果
 トナルヘシト思考セラル政府ハ果シテ修正案ヲ斯ノ如ク解セラルルヤ否ヤニ
 付五回、江木翼ハ近頃新聞紙上傳フル所ニ依レハ本案ニシテ若議了セラレサル
 場合ハ政府ハ本案ト内容ヲ同ウスル所ノ緊急勅令ヲ發布シテ其ノ目的ヲ達セ
 ムトスト政府ハ果シテ然ル非立憲ナル行動ヲ敢テスルノ覺悟ナリヤ否ヤニ付
 質疑ヲ爲シ内務大臣床次竹二郎各質疑ニ答辯ス議長ハ此ニ本案全部ヲ議題ト
 爲ス旨ヲ告ケ本案全部委員會ノ修正ヲ可決ス次テ貴族院規則第八十條但書ニ
 依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第三讀會ヲ開ク湯淺倉平ハ本案反對ノ意見ヲ子爵

八條隆正ハ本案賛成ノ意見ヲ述ヘ議長ハ此ニ休憩ヲ宣告ス
午後會議ヲ繼續ス伊澤多喜男ハ本案反對ノ意見ヲ述ヘ此ニ討論ヲ終リ第二讀
會ノ議決案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十號、第二十七號及第三十一號
ニ在リ

三月二十四日本案ヲ衆議院ニ送付セリ

附記

本案ハ衆議院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ閉會セラレタリ

○十四 借地借家調停法案

大正十一年一月二十七日内閣總理大臣子爵高橋是清、司法大臣伯爵

大木遠吉連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ニ修正ヲ加ヘ二月二

十一日本院ニ送付セリ

大正十一年二月二十五日本案ノ第一讀會ヲ開ク司法大臣伯爵大木遠吉本案提
出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議
決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

伯爵 寺島誠一郎 松室 致 男爵 船越光之丞

男爵 佐竹義準 加太邦憲 勝田主計

江木 翼 勝田銀次郎 成清 信愛

三月六日勝田銀次郎特別委員ヲ辭任セルニ依リ同日議長ハ其ノ補闕トシテ左
ノ如ク指名セリ

根津啓吉

本委員會ハ二月二十八日松室致ヲ委員長ニ、加太邦憲ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ
開クコト五回ニシテ審査ヲ了リ三月二十二日委員長ハ修正案ヲ具ヘテ議長ニ
報告セリ

三月二十二日議事日程ヲ變更シテ本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長松室致
本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ併テ修正ノ理由ヲ説明シ直ニ
大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但
書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク
委員會ノ修正ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十一號及第二十九號ニ在リ

三月二十二日本案ヲ衆議院ニ回付シ同日同院ヨリ本院ノ修正ニ同意シテ本案ヲ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

附記

借地借家調停法ハ大正十一年四月十二日法律第四十一號ヲ以テ公布セラレタリ

○十五 農會法案

大正十一年二月十日内閣總理大臣子爵高橋是清、農商務大臣男爵山本達雄連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月二十一日本院ニ送付セリ

大正十一年二月二十五日本案ノ第一讀會ヲ開ク農商務大臣男爵山本達雄本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス玉利喜造ハ第一、現行法ハ簡短ナル四五箇條ノ補助ニ關スル規定ニ依リテ成リ其ノ他ノ詳細ナル事項ハ總テ勅令ヲ以テ規定セラレタリ今本案ノ如キ組織法ノ制定セラルル以上ハ現在ノ勅令モ亦大ニ改正セラルヘシ願クハ參考ノ爲其ノ腹案ヲ示サレムコトヲ第二、第二條ニ列舉セル農會ノ事

業中農業ノ教育ニ關スル事項及農村ノ風紀維持ニ關スル事項ハ必ス其ノ五項中ニ包含セラルルニ相違ナキモ果シテ何ノ項中ニ屬スルヤ第三、本案中最モ緊要ナル農會ニ對スル國庫補助ノ件ハ本文中第七條ニ於テ唯豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ交付スルヲ得ルコトヲ規定セルノミニシテ現行法ノ金額ハ之ヲ取り去ラレタリ衆議院ハ之ニ對シ其ノ補助額ヲ百萬圓ト爲スノ希望條件ヲ付シテ本案ヲ可決セルカ如シ政府ハ該希望條件ヲ是認スルヤ否ヤヲ問ヒ阪本鈔之助ハ第一、府縣農會ハ沖繩縣ヲ除クノ外全國其ノ設置ヲ見サル所ナキモ郡市以下ノ農會ニ至リテハ其ノ設置アル場所ト未タ之ヲ設置セサル場所トアリ其ノ率ハ幾何ナリヤ又政府ハ本案ヲ以テ補助金ノ交付又ハ經費及過怠金ノ強制徴收ヲ許ス等大ニ之カ保護ヲ行ヒ市町村ノ末々ニ至ルマテ之カ設立ヲ獎勵セララルモ果シテ豫期ノ効果ヲ收メ得ルヤ否ヤ又郡制ノ廢止セラレタル今日ニ於テハ郡農會ノ如キハ其ノ事務ハ之ヲ町村組合ニ委シ以テ之ヲ廢止スルヲ相當ト思考ス當局者ノ之ニ關スル所考如何等ニ付質疑ヲ爲シ農商務大臣男爵山本達雄、政府委員農商務次官田中隆三交、各質疑ニ答辯ス次ヲ議長ハ特別委員ノ選定ハ

豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

侯爵 佐佐木行忠

伯爵 吉井幸藏

服部 一三

子爵 板倉勝憲

仲小路 廉

玉利喜造

男爵 坪井九八郎

男爵 島津健之助

山田 斂

本委員會ハ二月二十八日侯爵佐佐木行忠ヲ委員長ニ、玉利喜造ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト三回ニシテ審査ヲ了リ三月十七日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十日日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長侯爵佐佐木行忠本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス男爵目賀田種太郎ハ第三十條ノ市町村農會ノ經費ヲ市町村税ノ例ニ依リテ徵集スルノ規定ハ立法上甚タ穩當ヲ缺ケリト思考ス政府ノ趣意如何ト質シ政府委員田中隆三之ニ答辯ス男爵目賀田種太郎ハ第三十條ノ立法上ノ趣旨ヲ質ス爲農商務大臣又ハ法制局長官ノ出席ヲ求ム議長ハ其ノ出席ヲ求ムル爲他ノ日程ノ會議ニ移ル旨ヲ告ク
議長農商務大臣ノ出席アリタル旨ヲ告ケテ會議ヲ繼續ス男爵目賀田種太郎ハ

本案第三十條ノ強制徵收ノ立法上ノ趣意及何故ニ農會ヲ公法人ト認ムルヤ又第三條ノ農業ニ關スル紛議ノ仲裁ナル項目アルモ單ニ項目ノミニテハ之カ實行明カナラス他ニ之ニ必要ナル附帶ノ條項ナカルヘカラス如何等ニ付四回男爵武井守正ハ農會ニ依リ農村ノ得ル利益ハ極メテ薄少ナルノミナラス教育費其ノ他ノ過重ナル負擔ニ苦シメル農村ニ向ヒ強制徵收ノ方法ヲ以テ新タナル負擔ヲ課セムトスル政府ノ考ヘ如何ニ付二回ノ質疑ヲ爲ス農商務大臣男爵山本達雄政府委員法制局參事官馬場鏌一交、各質疑ニ答辯シ此ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ
三月二十日日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

農會法ハ大正十一年四月十一日法律第四十號ヲ以テ公布セラレタリ

○十六 司法事務共助法中改正法律案

大正十一年二月二十三日內閣總理大臣子爵高橋是清、臨時海軍大臣事務管理內閣總理大臣子爵高橋是清、外務大臣伯爵內田康哉、司法大臣伯爵大木遠吉連署提出

大正十一年二月二十八日日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員拓殖局長官川村竹治
本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任ス
ルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- 侯爵 鍋島直映
- 男爵 小澤武雄
- 子爵 京極高備
- 子爵 藪篤麿
- 水上長次郎
- 渡邊廉吉
- 男爵 坂本俊篤
- 鍋島桂次郎
- 石谷傳四郎

本委員會ハ三月七日侯爵鍋島直映ヲ委員長ニ、男爵坂本俊篤ヲ副委員長ニ舉ケ引續キ會議ヲ開キテ審査ヲ了リ同日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ
三月十一日日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長侯爵鍋島直映本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ議院法第二十七條但書ニ依

リ議院ノ議決ヲ以テ三讀會ノ順序ヲ省略シテ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十二號ニ在リ
三月十一日日本案ヲ衆議院ニ送付シ同月十八日同院ヨリ本院ノ議決ニ同意シテ本案ヲ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

附記

司法事務共助法中改正法律ハ大正十一年三月三十日法律第二十三號ヲ以テ公布セラレタリ

○十七 朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

大正十一年二月十三日內閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月二十三日本院ニ送付セリ
大正十一年二月二十八日日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員拓殖局長官川村竹治
本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

侯爵 徳川 圀順 伯爵 兒玉 秀雄 子爵 大給 近孝
 子爵 大浦 兼一 北里 柴三郎 男爵 安場 末喜
 男爵 福原 俊丸 三宅 秀 橋本 辰二郎
 本委員會ハ三月二日伯爵兒玉秀雄ヲ委員長ニ男爵安場末喜ヲ副委員長ニ擧ケ
 引續キ會議ヲ開キテ審査ヲ了リ同日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告
 セリ

三月六日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵兒玉秀雄本案ノ委員會審査
 ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ貴族院規則第七十五條但書及
 第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二第三讀會ヲ開キ異議ナク本案
 ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十二號ニ在リ
 三月六日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記
 朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律ハ大正十一年三月二十八日法律
 第十號ヲ以テ公布セラレタリ

○十八 大學特別會計法中改正法律案
 ○十九 大正八年法律第十二號中改正法律案

大正十一年二月二十三日兩案各、内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋
 是清、文部大臣中橋徳五郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ兩案ヲ可
 決シ同月二十三日本院ニ送付セリ

大正十一年二月二十八日兩案ノ各第一讀會ヲ開ク文部大臣中橋徳五郎兩案提
 出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議
 決ニ基キ兩案ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 伯爵 松木 宗隆 | 山 脇 玄 | 子爵 黒田 清輝 |
| 男爵 杉 溪言長 | 加納 治五郎 | 北 條 時敬 |
| 男爵 安藤 直雄 | 男爵 調 所恒徳 | 中村 純九郎 |
- 本委員會ハ三月六日伯爵松木宗隆ヲ委員長ニ山脇玄ヲ副委員長ニ擧ケ會議ヲ
 開クコト各一回ニシテ審査ヲ了リ同月十一日委員長ハ兩案ヲ可決セル旨ヲ議
 長ニ報告セリ

三月十四日兩案各第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵松木宗隆兩案ノ委員會
審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ各大體議ヲ了リ貴族院規則第七十五條
但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナ
ク兩案ヲ可決セリ兩案ハ載セテ速記録第二十二號ニ在リ

附記

大學特別會計法中改正法律ハ大正十一年三月二十八日法律第八號ヲ以テ、
大正八年法律第十二號中改正法律ハ同日法律第九號ヲ以テ孰モ公布セラ
レタリ

○二十 森林資金特別會計法廢止法律案

大正十一年二月十三日內閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名
衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月二十三日本院ニ送付
セリ

大正十一年二月二十八日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員大藏次官神野勝之助

本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任ス
ルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 子爵 伊集院兼知 | 子爵 本多忠鋒 | 男爵 藤井包總 |
| 男爵 黒川幹太郎 | 男爵 周布兼道 | 原 保太郎 |
| 高橋 琢也 | 山田 純精 | 高橋 隆一 |

本委員會ハ三月六日子爵伊集院兼知ヲ委員長ニ、高橋琢也ヲ副委員長ニ舉ケ會
議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ同月八日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議
長ニ報告セリ

三月十一日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長子爵伊集院兼知本案ノ委員會
審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開ク
コトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ
以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第
二十三號ニ在リ

三月十一日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

森林資金特別會計法廢止法律ハ大正十一年三月二十八日法律第七號ヲ以テ公布セラレタリ

○二十一 和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案

大正十一年二月十五日內閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清鐵道大臣元田肇連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月二十八日本院ニ送付セリ

大正十一年三月六日本案ノ第一讀會ヲ開ク鐵道大臣元田肇本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス江木翼ハ大藏當局ニ對シ公債發行ニ關スル法律ニ於テ其ノ明文中公債金額ヲ示サス本案ノ如ク其ノ數額ヲ政府ニ一任スルノ前例アルヤ否ヤニ付二回ノ質疑ヲ爲シ政府委員大藏次官神野勝之助之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- 子爵 青木信光
- 子爵 新庄直知
- 淺田德則

- 平井晴二郎
- 笠井信一
- 男爵 小畑大太郎

- 男爵 辻太郎
- 西川甚五郎
- 安田善三郎

本委員會ハ三月十一日淺田德則ヲ委員長ニ子爵新庄直知ヲ副委員長ニ擧ケ會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ同月十四日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月十六日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長淺田德則本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十三號ニ在リ

三月十六日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律ハ大正十一年三月二十三日法律第五號ヲ以テ公布セラレタリ

○二十二 道路法中改正法律案

大正十一年二月十五日內閣總理大臣子爵高橋是清、內務大臣床次竹二郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ三月二日本院ニ送付セリ

大正十一年三月六日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員內務次官小橋一太本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- 伯爵 中川久任
- 子爵 米津政賢
- 子爵 竹屋春光
- 男爵 南岩倉具威
- 男爵 福原俊丸
- 阪本鈺之助
- 川上親晴
- 西久保弘道
- 藤本閑作

次テ矢口長右衛門ハ大正八年道路法制定以來既ニ三星霜ヲ經タル今日ニ於テ地方道路ノ實情ヲ視ルニ何等計畫ノ立テラレタルモノアルナシ要スルニ徒ラニ法律ヲ美ニシ而シテ之ニ伴フ實行ニ於テ一モ見ルヘキモノナシトテ內務當局ノ之ニ對スル所考ヲ質スコト二回政府委員小橋一太即チ之ニ答辯ス

本委員會ハ三月十一日伯爵中川久任ヲ委員長ニ、阪本鈺之助ヲ副委員長ニ舉ケ引續キ會議ヲ開キテ審査ヲ了リ同日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月十四日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵中川久任本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十三號ニ在リ

附記

道路法中改正法律ハ大正十一年三月二十二日法律第三號ヲ以テ公布セラ

レタリ

- 二十三 朝鮮事業公債法中改正法律案
- 二十四 臺灣事業公債法改正法律案
- 二十五 樺太事業公債法中改正法律案

○二十六 關東州事業公債法案

○二十七 南洋廳特別會計法案

○二十八 大正五年法律第四號中改正法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案以下ノ四案ハ大正十一年二月四日
内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名南洋廳特別會計法案
ハ同月十日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清臨時海軍大臣
事務管理内閣總理大臣子爵高橋是清連署大正五年法律第四號中
改正法律案ハ同日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名孰
モ衆議院ニ提出シ同院ニ於テ各案ヲ可決シ三月四日本院ニ送付
セリ

大正十一年三月六日各案ノ第一讀會ヲ開ク大藏大臣子爵高橋是清各案提出ノ
趣旨ヲ辯明ス男爵阪谷芳郎ハ當局大臣ノ説明ニ依レハ次年度ヨリ臺灣ニ酒ノ
專賣ヲ實施ストノコトナルカ其ノ實施ハ新領土タル臺灣ノ民心ニ種々ナル影
響ヲ與フルモノナルヘシ政府ハ該制度ハ圓滿ニ施行セラルヘシト思考セラル

ルヤ否ヤヲ問ヒ政府委員臺灣總督男爵田健治郎之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委
員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ朝鮮事業公債法中改正法律
案外五件ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

子爵 稻垣 太祥

子爵 大給 近孝

黑岡 帶刀

荒井賢太郎

男爵 佐竹 義準

男爵 東郷 安

橋本圭三郎

高田 早苗

鈴木 摠兵衛

本委員會ハ三月八日荒井賢太郎ヲ委員長ニ男爵佐竹義準ヲ副委員長ニ舉ケ會
議ヲ開クコト各四回ニシテ審査ヲ了リ同月二十日委員長ハ各案ヲ可決セル旨
ヲ議長ニ報告セリ

三月二十二日各案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長荒井賢太郎各案ノ委員會審
査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス江木翼ハ南洋廳特別會計法案ニ關聯シテ南洋
ノ委任統治ニ係ル諸島ノ會計ニ關スル法規ハ法律案トシテ議會ニ提出セラル
ルモ統治ノ根本原則ニ關スル法規ハ一モ法律案トシテ提出セラレタルモノナ
シ此等ハ法律トシテ制定スルノ必要ナシトノ見解ナルヤ又委任統治ヲ受ケ居

ル地ニ對シテハ其ノ統治國ニ於テ主權ヲ行フモノタルコト明カナリ然ルニ政府カ此ノ地ニ對シ憲法ヲ施行セサルノ趣意如何等ニ付數回ノ質疑ヲ爲シ政府委員拓殖局長官川村竹治之ニ答辯シ此ニ各案ノ大體議ヲ了リ各案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二第三讀會ヲ開キ異議ナク各案ヲ可決セリ各案ハ載セテ速記録第二十三號ニ在リ

三月二十二日各案ノ裁可ヲ奏請シ又各案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
附記

朝鮮事業公債法中改正法律ハ大正十一年三月二十八日法律第十二號ヲ以テ臺灣事業公債法改正法律ハ同日法律第十三號ヲ以テ樺太事業公債法中改正法律ハ同日法律第十四號ヲ以テ關東州事業公債法ハ同日法律第十五號ヲ以テ南洋廳特別會計法ハ同日法律第十六號ヲ以テ大正五年法律第四號中改正法律ハ同日法律第十一號ヲ以テ孰モ公布セラレタリ
○二十九 感化法中改正法律案

大正十一年三月六日内閣總理大臣子爵高橋是清内務大臣床次竹二郎司法大臣伯爵大木遠吉連署提出

大正十一年三月十一日本案ノ第一讀會ヲ開ク内務大臣床次竹二郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ本案ノ審査ヲ少年法案外一件ノ特別委員ニ付託スル旨ヲ宣告ス

本委員會ハ本案ニ付會議ヲ開クコト四回ニシテ審査ヲ了リ三月二十日副委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十二日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員副委員長田所美治委員長ニ代リテ本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ

三月二十二日本案ヲ衆議院ニ送付シ同月二十四日同院ヨリ本院ノ議決ニ同意シテ本案ヲ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

附記

感化法中改正法律ハ大正十一年四月十八日法律第四十四號ヲ以テ公布セラレタリ

○三十 裁判所ノ設立ニ關スル法律案

○三十一 大正二年法律第九號中改正法律案

大正十一年二月二十七日兩案各、内閣總理大臣子爵高橋是清、司法

大臣伯爵大木遠吉連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ兩案ヲ可決シ

三月六日本院ニ送付セリ

三月十一日兩案ノ各第一讀會ヲ開ク司法大臣伯爵大木遠吉兩案提出ノ趣旨ヲ

辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ兩

案ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

子爵 勘解由小路資承

上山滿之進

男爵 二條 正麿

男爵 高崎 弓彦

西久保弘道

小池 靖一

麻生 太吉

竹村 與右衛門

橋本 辰二郎

本委員會ハ三月十四日上山滿之進ヲ委員長ニ、子爵勘解由小路資承ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト各、二回ニシテ審査ヲ了リ同月十六日委員長ハ兩案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十日兩案各第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長上山滿之進兩案ノ委員會審查ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ各大體議ヲ了リ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク兩案ヲ可決セリ兩案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ

三月二十日兩案ノ裁可ヲ奏請シ又兩案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

裁判所ノ設立ニ關スル法律ハ大正十一年四月十一日法律第三十四號ヲ以テ、大正二年法律第九號中改正法律ハ同日法律第三十五號ヲ以テ孰モ公布セラレタリ

○三十二 明治四十四年法律第六十一號中改正法律案

大正十一年二月二十日内閣總理大臣子爵高橋是清、文部大臣中橋

德五郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ三月六日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十一日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員文部省專門學務局長松浦鎮次郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス阪本鈺之助ハ現下帝國大學ニ屬スル演習林ノ數、演習林收入ノ處分及其ノ剩餘金額等ニ付二回ノ質疑ヲ爲シ政府委員松浦鎮次郎之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

子爵 吉田清風 子爵 秋田重季 石塚英藏

男爵 西村精一 男爵 藤堂高成 男爵 中川良長

男爵 藤田平太郎 室田義文 高橋隆一

本委員會ハ三月十四日子爵吉田清風ヲ委員長ニ石塚英藏ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ同月十五日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月十六日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長子爵吉田清風本案委員會審査

ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ

三月十六日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

明治四十四年法律第六十一號中改正法律ハ大正十一年三月二十三日法律

第四號ヲ以テ公布セラレタリ

○三十三 明治四十年法律第四十九號中改正法律案

大正十一年二月二十八日內閣總理大臣子爵高橋是清署名衆議院

案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ本案ノ審査ヲ明治四十四年法律第六十一號中改正法律案特別委員ニ付託スル旨ヲ宣告ス

本委員會ハ本案ニ付會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ三月十五日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ
 三月十六日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長子爵吉田清風本案ノ委員會審查ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ
 三月十六日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

明治四十年法律第四十九號中改正法律ハ大正十一年四月一日法律第二十八號ヲ以テ公布セラレタリ

- 三十四 府縣制中改正法律案
- 三十五 北海道會法中改正法律案
- 三十六 北海道地方費法中改正法律案
- 三十七 市制中改正法律案

府縣制中改正法律案ハ大正十一年一月三十日、北海道會法中改正法律案以下ノ三案ハ同年二月十日各、內閣總理大臣子爵高橋是清、內務大臣床次竹二郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ府縣制中改正法律案、北海道會法中改正法律案ハ修正ヲ加ヘ北海道地方費法中改正法律案、市制中改正法律案ハ之ヲ可決シ三月七日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十一日各案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員內務次官小橋一太各案提出ノ趣旨ヲ辯明ス阪本鈺之助ハ府縣制中改正法律案ノ改正條項ハ總テ選舉權ニ關スルモノナルカ政府ハ何故ニ此ノ機會ニ於テ府縣經濟整理ニ關スル規定ノ改正ニ及ハサルヤ又本案第六條第九項ノ府縣ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ請負會社ノ役員支配人タル者ヲシテ被選舉權ヲ有セシメサルノ規定ハ衆議院議員選舉法、市町村制等ニモ亦之ヲ存セリ然ルニ特リ貴族院令ニ依リ選舉セララル議員ニ對シテハ一切此等ノ規定ヲ存セス政府ハ貴族院令ニ付テハ此ノ如キ制限條項ヲ設クル必要ナシトスルヤ等ニ付質疑ヲ爲シ政府委員小橋一太即チ之

ニ答辯ス矢口長右衛門ハ府縣制中改正法律案外一件ノ議案ニ對スル衆議院ノ修正ハ政府ノ同意ヲ表スル所ナルヤ否ヤヲ質シ政府委員小橋一太ハ兩案ノ修正ハ政府ノ同意ヲ表スル所ナル旨ヲ答フ次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ四案ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

侯爵 徳川 圀 順 子爵 藤谷 爲 寛 子爵 今 城 定 政

大久保利武 荒川義太郎 男爵 南岩倉具威

男爵 平野 長 祥 笠 井 信 一 谷 森 眞 男

本委員會ハ三月十五日大久保利武ヲ委員長ニ男爵南岩倉具威ヲ副委員長ニ擧ケ會議ヲ開クコト各、四回ニシテ審査ヲ了リ同月二十三日委員長ハ各案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十五日各案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長大久保利武各案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ各大體議ヲ了リ各案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク各案ヲ可決セリ各案ハ載セテ速記録第

二十四號ニ在リ

三月二十五日各案ノ裁可ヲ奏請シ又各案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

府縣制中改正法律ハ大正十一年四月二十日法律第五十五號ヲ以テ、北海道會法中改正法律ハ同日法律第五十七號ヲ以テ、北海道地方費法中改正法律ハ同日法律第五十八號ヲ以テ、市制中改正法律ハ同日法律第五十六號ヲ以テ孰モ公布セラレタリ

○三十八 明治四十年法律第二十一號中改正法律案

大正十一年二月二十四日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ三月七日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十一日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員拓殖局長官川村竹治本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ本案ノ審査ヲ府縣制中改正法律案外三件ノ特別委員ニ付託スル旨ヲ宣告ス

本委員會ハ本案ニ付會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ三月二十日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十四日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長大久保利武本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ

三月二十四日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

明治四十年法律第二十一號中改正法律ハ大正十一年三月三十日法律第二十號ヲ以テ公布セラレタリ

○三十九 大正九年法律第十二號中改正法律案

大正十一年二月二十四日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月七日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十一日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員大藏次官神野勝之助本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ本案ノ審査ヲ府縣制中改正法律案外四件ノ特別委員ニ付託スル旨ヲ宣告ス

本委員會ハ本案ニ付會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ三月二十日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十五日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長大久保利武本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ

三月二十五日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

大正九年法律第十二號中改正法律ハ大正十一年三月三十一日法律第二十七號ヲ以テ公布セラレタリ

○四十 傳染病豫防法中改正法律案

○四十一 海港檢疫法中改正法律案

大正十一年二月二十八日兩案各、内閣總理大臣子爵高橋是清、内務大臣床次竹二郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ兩案ヲ可決シ三月七日本院ニ送付セリ。

大正十一年三月十一日兩案ノ各第一讀會ヲ開ク政府委員内務次官小橋一太兩案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ兩案ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

伯爵 萬里小路通房 子爵 實吉安純 子爵 豐岡圭資

子爵 立花種忠 北里柴三郎 黑岡帶刀

男爵 若王子文健 川上親晴 田中清文

本委員會ハ三月十四日子爵實吉安純ヲ委員長ニ北里柴三郎ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト各二回ニシテ審査ヲ了リ同月十七日委員長ハ兩案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十日兩案各第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長子爵實吉安純兩案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ各大體議ヲ了リ兩案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク兩案ヲ可決セリ兩案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ

附記

傳染病豫防法中改正法律ハ大正十一年四月十一日法律第三十二號ヲ以テ、海港檢疫法中改正法律ハ同日法律第三十三號ヲ以テ孰モ公布セラレタ

○四十二 貨幣法中改正法律案

大正十一年二月二十四日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ三月七日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十一日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員大藏次官神野勝之助本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

子爵 渡邊千冬 男爵 毛利五郎 男爵 小畑大太郎

阪本鈺之助 倉知鐵吉 菅原通敬

早川千吉郎 犬上慶五郎 岡本榮吉

本委員會ハ三月十八日子爵渡邊千冬ヲ委員長ニ阪本鈺之助ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ同月二十二日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十三日日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長子爵渡邊千冬本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス若槻禮次郎ハ豫算面ニ於テハ大正十一年度ノ造幣益金ニ於テ五千六七百萬圓ヲ計上セリ是レ蓋シ本改正案ニ依ル急速ナル銀貨改鑄ヨリ生スルモノナラムカ此ノ利益ハ之ニ相當スル補助貨ヲ増發セラルルノ關係トナルモノト思惟ス政府ハ或ハ之ヲ小額紙幣ト引換フルノ方法

ニ依リテ増發セムトスルニハ非サルヤ又改鑄セラルヘキ補助貨ハ既ニ政府ノ手ニ集マリ居レリヤ或ハ今ヨリ之ヲ蒐集セムトスルカ若手許ニ集マリ居ルトセハ其ノ額幾何ナリヤ等ニ付三回ノ質疑ヲ爲シ政府委員大藏省理財局長小野義一之ニ答辯シ此ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ三月二十三日日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

貨幣法中改正法律案ハ大正十一年四月二十八日法律第七十三號ヲ以テ公布セラレタリ

○四十三 刑事訴訟法案

大正十一年二月四日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清臨時海軍大臣事務管理内閣總理大臣子爵高橋是清外務大臣伯爵内田康哉農商務大臣男爵山本達雄内務大臣床次竹二郎文部大臣中橋

德五郎、遞信大臣野田卯太郎、鐵道大臣元田肇、司法大臣伯爵大木遠吉、陸軍大臣山梨半造連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ニ修正ヲ加ヘ三月八日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十一日本案ノ第一讀會ヲ開ク司法大臣伯爵大木遠吉本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議院ハ淺田德則ノ動議ニ依リ貴族院規則第五十二條但書ニ依リ特別委員ノ數ヲ十五名ト爲スコトヲ議決ス議長乃チ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ如ク指名ス

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 伯爵 寺島誠一郎 | 子爵 伊東祐弘 | 子爵 池田政時 |
| 淺田 德則 | 松室 致 | 河村 善益 |
| 河村 讓三郎 | 男爵 新田忠純 | 鈴木喜三郎 |
| 男爵 毛利五郎 | 男爵 矢吹省三 | 石渡 敏一 |
| 勝田 主計 | 岡田 文次 | 湯淺 倉平 |

本委員會ハ三月十四日伯爵寺島誠一郎ヲ委員長ニ、松室致ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト五回ニシテ審査ヲ了リ同月二十三日委員長ハ修正案ヲ具ヘテ議

長ニ報告セリ

三月二十五日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵寺島誠一郎本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ併セテ修正ノ理由ヲ説明シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク委員會ノ修正ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十四號及第三十二號ニ在リ

三月二十五日本案ヲ衆議院ニ回付シ同日同院ヨリ本院ノ修正ニ同意シテ本案ヲ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

附記

刑事訴訟法ハ大正十一年五月五日法律第七十五號ヲ以テ公布セラレタリ

○四十四 露國政變及西比利亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案

大正十一年二月十五日內閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清、外

務大臣伯爵内田康哉連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決
シ三月九日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十一日本案ノ第一讀會ヲ開ク外務大臣伯爵内田康哉本案提出
ノ趣旨ヲ辯明ス矢口長右衛門ハ第一條ニ規定スル被害ノ調査ハ既ニ完成シ居
ルヤ又外務大臣ノ説明ニ係ル救恤金額百五十萬圓以内ハ或ハ過少ニハ非サル
カヲ質シ外務大臣伯爵内田康哉即チ之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ
豫メ之ヲ議長ニ委任スレノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

伯爵 副島道正 子爵 牧野一成 男爵 坂本俊篤

男爵 目賀田種太郎 福永吉之助 鍋島桂次郎

市來乙彦 石谷傳四郎 高橋源次郎

本委員會ハ三月十四日伯爵副島道正ヲ委員長ニ男爵目賀田種太郎ヲ副委員長
ニ舉ケ會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ同月二十日委員長ハ本案ヲ可決
セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十二日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵副島道正本案ノ委員會

審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス阪本鈺之助ハ委員長ノ説明ニ依レハ露國政
變及西比利亞事變ニ依レル損害ノ要求額ハ無慮三千萬圓ニ及ヘルモ日露戰爭
當時ノ例ニ鑒ミ政府ハ之ヲ百五十萬圓ヲ以テ決濟スルノ見込ナルカ如シ此ノ
金額中ニ彼ノ空前ノ悲惨事タルニコライエフスク遭難者ニ對スルモノ幾何ヲ
包含スルヤ又政府ハ此ノ百五十萬圓以外ニ於テ相當吊慰ノ方法ヲ講シツツア
ルヤ等ニ付三回ノ質疑ヲ爲シ矢口長右衛門ハ本案第五條ノ救恤審査會ナルモ
ノハ法案通過後直ニ組織セラルヘキヤ又其ノ方法如何等ヲ質シ政府委員外務
省情報部次長田中都吉各質疑ニ答辯シ此ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ
開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議
決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記
録第二十四號ニ在リ

附記

露國政變及西比利亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律ハ大

正十一年四月十二日法律第三十九號ヲ以テ公布セラレタリ

○四十五 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法案

大正十一年二月二十日內閣總理大臣子爵高橋是清、內務大臣床次竹二郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ三月九日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十一日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員內務次官小橋一太本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- 侯爵 大隈 信 常
- 子爵 秋 月 種 英
- 櫻 井 錠 二
- 男爵 斯波忠三郎
- 男爵 黑川幹太郎
- 男爵 安 藤 直 雄
- 安 樂 兼 道
- 大 谷 嘉 兵 衛
- 西 川 甚 五 郎

本委員會ハ三月十三日櫻井錠二ヲ委員長ニ、子爵秋月種英ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ同月十五日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十日本案第一讀會ノ議ヲ開ク特別委員長櫻井錠二本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十四號ニ在リ

三月二十日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
附記

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法ハ大正十一年四月十一日法律第三十一號ヲ以テ公布セラレタリ

- 四十六 信託法案
- 四十七 信託業法案
- 四十八 擔保附社債信託法中改正法律案
- 四十九 不動産登記法中改正法律案
- 五十 非訟事件手續法中改正法律案

- 五十一 所得稅法中改正法律案
- 五十二 相續稅法中改正法律案
- 五十三 登錄稅法中改正法律案
- 五十四 印紙稅法中改正法律案
- 五十五 日本興業銀行法中改正法律案
- 五十六 臺灣銀行法中改正法律案
- 五十七 北海道拓殖銀行法中改正法律案

大正十一年二月十八日信託法案ハ内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清、司法大臣伯爵大木遠吉連署、信託業法案、擔保附社債信託法中改正法律案ハ各、内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名、不動產登記法中改正法律案、非訟事件手續法中改正法律案ハ各、内閣總理大臣子爵高橋是清、司法大臣伯爵大木遠吉連署、同年二月二十四日所得稅法中改正法律案以下ノ七案ハ各、内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名衆議院ニ提出シ同院ニ於テ信託業法案

ハ修正ヲ加ヘ其ノ他ノ十一案ハ之ヲ可決シ三月十一日孰モ本院ニ送付セリ

大正十一年三月十四日各案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員司法次官山内確三郎ハ信託法案、不動產登記法中改正律案及非訟事件手續法中改正法律案ニ付、大藏大臣子爵高橋是清ハ信託業法案、擔保附社債信託法中改正法律案、所得稅法中改正法律案、相續稅法中改正法律案、登錄稅法中改正法律案、印紙稅法中改正法律案、日本興業銀行法中改正法律案、臺灣銀行法中改正法律案、北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ付各、提出ノ趣旨ヲ辯明シ併セテ信託業法案ニ對スル衆議院ノ修正ハ政府ノ同意ヲ表スル所ナル旨ヲ述フ、菅原通敬ハ信託業法案中ニ規定スル所ハ大藏大臣ノ述ヘラレタル如ク其ノ全部會社ノ取締監督ニ關スルモノニシテ信託會社ノ保護獎勵若ハ發達助勢ニ關スル規定ハ一モ之ヲ發見セス政府ハ斯ノ如キ法律ニ依リテ果シテ能ク信託會社ノ發達ヲ期スルヲ得ルト信スルヤ即チ第一、米國式ニ發達シ來レル我カ信託會社ニ對シ政府ハ其ノ歴史ヲ無視シ英國式ノ信託業法ヲ適用セムトスルハ現状ヲ破壞スルノミナラス時代ノ求ニ要

應スル所以ニ非スト認ム政府ノ所見如何第二、政府ハ信託會社ノ業務ノ範圍ハ廣汎ニ失スト爲ス其ノ根據何レニ在リヤ第三、信託會社ノ業務ハ或ル程度マテ他業トノ競争ヲ避ケ得ヘカラスト思惟セラル政府ノ所見如何第四、本案取締規定ノ爲信託會社ノ多數ハ廢業、轉業其ノ他法ノ適用ヲ避クルノ行爲ニ出ツヘク之カ爲法ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至ルヘシト思料セラル政府ノ所見果シテ如何第五、政府ハ企業金融機關トシテ信託會社ノ發達ヲ希望セラレサルヤ等ニ付質疑ヲ爲シ大藏大臣子爵高橋是清即チ之ニ答辯ス議長ハ此ニ休憩ヲ宣告ス

午後會議ヲ繼續ス菅原通敬ハ高橋大藏大臣ノ午前ノ答辯ニ對シ更ニ述フル所アリ矢口長右衛門ハ兩案ヲ一箇ノ形式ト爲サスシテ故ラニ之ヲ別箇ノ形式ト爲セルノ理由ヲ質シ政府委員大藏次官神野勝之助之ニ答辯ス次テ議院ハ淺田德則ノ動議ニ依リ貴族院規則第五十二條但書ニ從ヒ信託法案以下十二案ノ特別委員ノ數ヲ十五名ト爲スコトヲ議決ス議長乃チ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ各案ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

伯爵 兒玉 秀雄 子爵 八條 隆正 石塚 英藏

男爵 岡田 良平 男爵 長松 篤柴 男爵 横山 隆俊

男爵 藤村 義朗 加太 邦憲 橋本 圭三郎

倉知 鐵吉 小山 健三 室田 義文

菅原 通敬 早川 千吉郎 安田 善三郎

本委員會ハ三月十六日伯爵兒玉秀雄ヲ委員長ニ菅原通敬ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト各五回ニシテ審査ヲ了リ同月二十三日委員長ハ各案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十五日各案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵兒玉秀雄各案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス菅原通敬ハ信託法案外十一件ノ法案ニ賛成ノ意見ヲ述ヘ此ニ各案ノ大體議ヲ了リ各案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク各案ヲ可決セリ各案ハ載セテ速記録第二十五號ニ在

三月二十五日各案ノ裁可ヲ奏請シ又各案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
附記

信託法ハ大正十一年四月二十一日法律第六十二號ヲ以テ、信託業法ハ同日法律第六十五號ヲ以テ、擔保附社債信託法中改正法律ハ同日法律第六十六號ヲ以テ、不動産登記法中改正法律ハ同日法律第六十四號ヲ以テ、非訟事件手續法中改正法律ハ同日法律第六十三號ヲ以テ、所得税法中改正法律ハ同日法律第四十五號ヲ以テ、相續税法中改正法律ハ同日法律第四十八號ヲ以テ、登録税法中改正法律ハ同日法律第四十六號ヲ以テ、印紙税法中改正法律ハ同日法律第四十七號ヲ以テ、日本興業銀行法中改正法律ハ同日二月十一日法律第六十七號ヲ以テ、臺灣銀行法中改正法律ハ同日法律第六十八號ヲ以テ、北海道拓殖銀行法中改正法律ハ同日法律第六十九號ヲ以テ孰モ公布セラレタリ

○五十八 船員職業紹介法案

大正十一年三月六日内閣總理大臣子爵高橋是清、逓信大臣野田卯

太郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月十一日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十四日本案ノ第一讀會ヲ開ク逓信大臣野田卯太郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

子爵 榎本武憲 子爵 本多忠鋒 子爵 竹屋春光

内田嘉吉 男爵 北大路實信 男爵 赤松範一

田所美治 江木翼 犬上慶五郎

本委員會ハ三月十六日内田嘉吉ヲ委員長ニ、子爵本多忠鋒ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ同月十七日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長内田嘉吉本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續

テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十五號ニ在リ

三月二十日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
附記

船員職業紹介法ハ大正十一年四月十一日法律第三十八號ヲ以テ公布セラレタリ

○五十九 明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案

大正十一年三月十一日内閣總理大臣子爵高橋是清署名提出

大正十一年三月十四日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員拓殖局長官川村竹治本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス議長ハ本案ノ審査ヲ明治四十四年法律第六十一號中改正法律案特別委員ニ付託スル旨ヲ宣告ス
本委員會ハ本案ニ付會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ三月十五日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月十六日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長子爵吉田清風本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十五號ニ在リ

三月十六日本案ヲ衆議院ニ送付シ同月二十四日同院ヨリ本院ノ議決ニ同意シテ本案ヲ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

附記

明治三十三年法律第七十五號及明治三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律ハ大正十一年三月三十日法律第十九號ヲ以テ公布セラレタリ

○六十 大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案

大正十一年三月二日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清鐵道大臣元田肇連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月十四日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十六日本案ノ第一讀會ヲ開ク鐵道大臣元田肇本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ本案ノ審査ヲ和賀輕便軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案特別委員ニ付託スル旨ヲ宣告ス三月二十三日安田善三郎特別委員ヲ辭任セルニ依リ同日議長ハ其ノ補闕トシテ左ノ如ク指名セリ

男爵 藤堂 高成

本委員會ハ本案ニ付會議ヲ開クコト二回ニシテ審査ヲ了リ三月二十三日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十五日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長淺田德則本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十六號ニ在リ

三月二十五日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律ハ大正十一年四月十日法律第三十號ヲ以テ公布セラレタリ

○六十一 簡易生命保險法中改正法律案

大正十一年三月十三日内閣總理大臣子爵高橋是清、遞信大臣野田卯太郎連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月十五日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十六日本案ノ第一讀會ヲ開ク遞信大臣野田卯太郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス阪本鈺之助ハ本改正案ニ於テ保險額ノ増加ヲ僅ニ百圓ニ止メタル理由ヲ質シ遞信大臣野田卯太郎即チ之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

伯爵 勸修寺經雄

子爵 西大路吉光

男爵 高千穗宣麿

男爵 岩倉道俱

男爵 調所恒徳

高田 早苗

大谷嘉兵衛

藤本閑作

三木與吉郎

本委員會ハ三月十八日伯爵勸修寺經雄ヲ委員長ニ、子爵西大路吉光ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ同月二十二日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十三日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵勸修寺經雄本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十六號ニ在リ

三月二十三日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

簡易生命保險法中改正法律ハ大正十一年四月十一日法律第三十六號ヲ以テ公布セラレタリ

○六十二 臺灣私設鐵道補助法案

大正十一年三月九日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名

衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月十五日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十六日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員臺灣總督男爵田健治郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

子爵 青木 信光 子爵 新庄直知 大島 健一

平井晴二郎 男爵 安場末喜 男爵 黒川幹太郎

中村純九郎 西久保弘道 平尾喜三郎

本委員會ハ三月二十日子爵新庄直知ヲ委員長ニ、男爵安場末喜ヲ副委員長ニ舉ケ會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ同月二十三日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十四日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長子爵新庄直知本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ

以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第
二十六號ニ在リ

三月二十四日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
附記

臺灣私設鐵道補助法ハ大正十一年三月三十日法律第二十四號ヲ以テ公布
セラレタリ

○六十三 銅、真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案

大正十一年三月九日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清、農商
務大臣男爵山本達雄連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決
シ同月十五日本院ニ送付セリ

大正十一年三月十六日本案ノ第一讀會ヲ開ク大藏大臣子爵高橋是清本案提出
ノ趣旨ヲ辯明ス男爵東郷安ハ本邦ハ世界ノ銅產國トシテ重要ナル位地ヲ占メ
居タルニ最近一兩年ノ間ニ於テ俄ニ銅ノ輸入國ト爲レリ政府ハ今ヤ關稅引上
ケニ依リ之ヲ防遏保護セムトスルモ其ノ以前ニ於テハ尙ホ幾多ノ保護助長ノ

手段アルヘク又アルヘキ筈ナリト思考ス政府ハ果シテ如何ナル手段方法ヲ講
セシヤ又本邦ノ銅ノ生産費ノ關係即チ日本ニ於テ銅ヲ輸出スルカ輸入スルカ
ノ極メテ重要ナル事實ニ對シ政府ハ相當ノ周旋ヲ爲スヲ當然トス然ルニ徒ラ
ニ當業者ノ利己的計算、自我的執着ノミニ委シ而シテ銅工業ノ不振ニ陷レル今
日ニ至リ俄ニ關稅ヲ增加シテ一般國民ノ負擔ヲ重カラシムルカ如キハ果シテ
適當ナル手段ナルヤ否ヤ等ニ付政府ノ意見ヲ質シ政府委員農商務次官田中隆
三之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ
基キ左ノ九名ヲ指名ス

伯爵 吉井幸藏 服部 一三 子爵 秋月種英

男爵 藤井包總 男爵 小早川四郎 男爵 福原俊丸

男爵 藤田平太郎 安樂兼道 西川甚五郎

本委員會ハ三月十七日伯爵吉井幸藏ヲ委員長ニ、服部一三ヲ副委員長ニ舉ケ會
議ヲ開クコト三回ニシテ審査ヲ了リ同月二十日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ
議長ニ報告セリ

三月二十二日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵吉井幸藏本案ノ委員會
 審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開ク
 コトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ
 以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第
 二十六號ニ在リ

三月二十二日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
 附記

銅、真鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律ハ大正十一年三月三十日法律第二十
 二號ヲ以テ公布セラレタリ

○六十四 健康保健法案
 大正十一年三月十三日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清、農
 商務大臣男爵山本達雄、司法大臣伯爵大木遠吉連署衆議院ニ提出
 シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月十五日本院ニ送付セリ
 大正十一年三月十六日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員農商務次官田中隆三本

案提出ノ趣旨ヲ辯明ス男爵東郷安ハ本案健康保險法ハ歐米各國ノ制度ニ倣ヒ
 タルモノニシテ歐米各國ニ於テハ之カ爲ニ勞働者ノ怠慢ヲ促シ其ノ結果トシ
 テ頗ル惡傾向ヲ來セルノ事實アルコトハ當局ニ於テモ其ノ調査報告ニ依リ明
 瞭ニ知悉シ居ラルモノト信ス當局ノ之ニ對スル用意如何ヲ質シ政府委員田
 中隆三即チ之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スル
 ノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- 子爵 片桐 貞 央
- 男爵 北里 柴 三 郎
- 男爵 武 井 守 正
- 男爵 上 山 滿 之 進
- 男爵 平 野 長 祥
- 男爵 岩 佐 新
- 男爵 江 木 翼
- 男爵 金 杉 英 五 郎
- 男爵 横 山 章

三月十八日男爵岩佐新特別委員ヲ辭任セルニ依リ同日議長ハ其ノ補闕トシテ
 左ノ如ク指名セリ
 男爵 福 原 俊 丸
 本委員會ハ三月十八日子爵片桐貞央ヲ委員長ニ、江木翼ヲ副委員長ニ舉ケ會議
 ヲ開クコト三回ニシテ審査ヲ了リ同月二十三日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ

議長ニ報告セリ

三月二十五日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長子爵片桐貞央本案ノ委員會
 審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス山脇玄ハ農商務大臣ニ對シ日本ノ現在ニ於
 テハ本案ノ趣旨タル勞働者ノ疾病、負傷、死亡、分娩ニ對スル費用給付ヨリモ寧ロ
 失業救済ヲ目的トスル保險制度ヲ設クルヲ急務ト爲ササルカ但シ此ノ失業保
 險ハ之カ制定頗ル困難ナリトハ聞クモ當局大臣ノ之ニ對スル意見如何又委員
 長ノ報告ニ依レハ政府ハ大ナル事業ヲ經營セル會社組合等ニ對シテハ命令的
 ニ之ヲ實行セシムルノ意思ナルカ如シ若政府カ強制的ニ健康保險ヲ實行シタ
 ル場合ハ其ノ會社組合等ニ屬スル勞働者ハ其ノ範圍外ニ於テハ本案ノ規定ス
 ル保險ニ加ハルヲ得サルヤ將加ハルヲ要セストノ主意ナリヤ等ニ付二回ノ質
 疑ヲ爲シ農商務大臣男爵山本達雄一々之ニ答辯シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付
 第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依
 リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ
 載セテ速記録第二十六號ニ在リ

三月二十五日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

健康保險法ハ大正十一年四月二十二日法律第七十號ヲ以テ公布セラレタ
 リ

○六十五 内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出
 入ニ關スル法律案

大正十一年三月九日内閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名
 衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月十八日本院ニ送付
 セリ

大正十一年三月二十日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員拓殖局長官川村竹治本
 案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スル
 ノ議決ニ基キ左ノ九名ヲ指名ス

- 子爵 土方雄志
- 子爵 松平直平
- 男爵 目賀田種太郎
- 男爵 安場末喜
- 男爵 周布兼道
- 鍋島桂次郎

鎌田勝太郎

橋本辰二郎

田中清文

本委員會ハ三月二十三日男爵目賀田種太郎ヲ委員長ニ橋本辰二郎ヲ副委員長ニ舉ケ引續キ會議ヲ開キテ審査ヲ了リ同日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十五日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長男爵目賀田種太郎本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス伯爵柳澤保惠ハ委員長ノ説明ニ係ル本邦ト南洋諸島トノ間ニ於ケル輸出入額ハ最近ノ調査ニ基ケル計數ナルヤ將過去數年間ノ平均額ナルヤ又將來ノ輸出入額ハ現在ト増減ナキ見込ナルヤ將漸次増進ノ見込ナリヤ等ヲ質シ特別委員長男爵目賀田種太郎之ニ答辯シ此ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十八號ニ在リ

三月二十五日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
附記

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律ハ大正十一年四月十八日法律第五十號ヲ以テ公布セラレタリ

○六十六 裁判所構成法中改正法律案

大正十一年三月十一日内閣總理大臣子爵高橋是清、司法大臣伯爵大木遠吉連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月十八日本院ニ送付セリ

大正十一年三月二十日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員司法次官山内確三郎本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ本案ノ審査ヲ刑事訴訟法案外二件ノ特別委員ニ付託スル旨ヲ宣告ス

本案ニ付會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ三月二十二日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十五日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長松室致本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續

テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記録第二十八號ニ在リ

三月二十五日本案ノ裁可ヲ奏請シ又本案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ
附記

裁判所構成法中改正法律ハ大正十一年四月十九日法律第五十三號ヲ以テ公布セラレタリ

○六十七 明治三十五年法律第四十九號中改正法律案
○六十八 統計資料實地調査ニ關スル法律案

大正十一年三月十五日明治三十五年法律第四十九號中改正法律案ハ内閣總理大臣子爵高橋是清署名、統計資料實地調査ニ關スル法律案ハ内閣總理大臣子爵高橋是清、農商務大臣男爵山本達雄、内務大臣床次竹二郎、逓信大臣野田卯太郎、鐵道大臣元田肇連署衆議院ニ提出シ同院ニ於テ兩案ヲ可決シ同月十八日本院ニ送付セ

大正十一年三月二十日兩案ノ各第一讀會ヲ開ク政府委員國勢院總裁小川平吉兩案提出ノ趣旨ヲ辯明ス伯爵柳澤保惠ハ明治三十九年法律第四十九號中改正法律案中ノ簡易ナル國勢調査トハ其ノ方法ノ簡易ナルノ意味ナルカ將調査項目ノ簡單ナルヲ云フカ又其ノ方法ハ國勢調査ノ場合ト同一ト爲スカ又其ノ費用ノ概算額幾何、繼續年限ハ何年、而シテ所管ハ何レニ屬スルヤ又統計資料實地調査ニ關スル法律案ハ勞働統計ノ材料蒐集ヲ目的ト爲セルカ如シ果シテ然ラハ他ノ重要ナル統計調査ヲ爲ス場合ハ更ニ一ノ法案ヲ提出スルノ考ナルカ又此ノ勞働統計材料蒐集ノ法案ハ何故ニ之ヲ中央統計委員會ニ諮問セサルヤ又其ノ費用、調査ノ範圍、方法並執行時期如何等ニ付二回ノ質疑ヲ爲シ政府委員小川平吉之ニ答辯ス次テ議長ハ特別委員ノ選定ハ豫メ之ヲ議長ニ委任スルノ議決ニ基キ兩案ノ特別委員ヲ左ノ如ク指名ス

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 伯爵 柳澤 保惠 | 子爵 本多 忠鋒 | 男爵 西村 精一 |
| 男爵 斯波忠三郎 | 男爵 坪井九八郎 | 原 保太郎 |
| 和 田 豐 治 | 高 倉 虎 | 土 田 萬 助 |

本委員會ハ三月二十三日伯爵柳澤保惠ヲ委員長ニ、男爵斯波忠三郎ヲ副委員長ニ舉ケ引續キ會議ヲ開キテ兩案ノ審査ヲ了リ同日委員長ハ兩案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十五日兩案各第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長伯爵柳澤保惠兩案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ各大體議ヲ了リ兩案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク兩案ヲ可決セリ兩案ハ載セテ速記錄第二十八號ニ在リ

三月二十五日兩案ノ裁可ヲ奏請シ又兩案可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

附記

明治三十五年法律第四十九號中改正法律ハ大正十一年四月十九日法律第五十一號ヲ以テ統計資料實地調査ニ關スル法律ハ同日法律第五十二號ヲ以テ孰モ公布セラレタリ

○六十九 大正九年法律第五十二號中改正法律案

大正十一年三月十五日內閣總理大臣兼大藏大臣子爵高橋是清署名衆議院ニ提出シ同院ニ於テ本案ヲ可決シ同月十八日本院ニ送付セリ

大正十一年三月二十日日本案ノ第一讀會ヲ開ク政府委員大藏省主稅局長松本重威本案提出ノ趣旨ヲ辯明ス次テ議長ハ本案ノ審査ヲ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案特別委員ニ付託スル旨ヲ宣告ス

本委員會ハ本案ニ付會議ヲ開クコト一回ニシテ審査ヲ了リ三月二十三日委員長ハ本案ヲ可決セル旨ヲ議長ニ報告セリ

三月二十五日日本案第一讀會ノ續ヲ開ク特別委員長男爵目賀田種太郎本案ノ委員會審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告シ直ニ大體議ヲ了リ本案ニ付第二讀會ヲ開クコトヲ議決シ貴族院規則第七十五條但書及第八十條但書ニ依リ議院ノ議決ヲ以テ續テ第二、第三讀會ヲ開キ異議ナク本案ヲ可決セリ本案ハ載セテ速記錄第二十八號ニ在リ